

使徒行録

第一編 聖ペトロの事跡

第一項 エルザレムにおける聖会の開始

第一款 キリスト伝と聖会史との間の事から

第一章 冒頭 1 テオフィロよ、われ、先に第一の書¹を作りて、すべてイエズスの初めより行な

2 い、かつ教え給いしことを述べ、2 その選み給いし使徒たちに聖霊によりて命じおき、さて天に
3 上げられ給いし日までに及びたりしが、3 イエズスご受難ののち、多くの印をもって、彼らにお
のれの生きてたることを証明し、四十日の間、彼らに現われ、神の国に関して物語り給えり。²

第一 キリストのご昇天

4 イエズスの最後の命令 4 またともに食しつつ彼らに、エルザレムを離れずして父の約束を待
5 つべしと命じ、さてのたまひけるは、汝らわが口³からその約束を聞けり、5 けだしヨハネは水
にて洗したれども、汝らは日久^{ひき}しからずして聖霊にて洗せらるべきなり、と。⁴

6 時ならぬ使徒たちの問 6 されば集まりたる人々問いて、主よ、イスラエルの国を回復し給う
 7 はこのごろなるか、と言いければ、7 イエズスのたまいけるは、父がその権能によりて定め給い
 8 し時刻は、汝らの知るべきにあらず、8 ただし汝らに臨み給う聖霊の能力を受けて、汝らはエル
 ザレム、ユデア全国、サマリア、地の果はに至るまでもわが証人とならん、と。
 9 ご昇天のありさま 9 かくのたまいはて、彼らの見るうちに上げられ給いしが、ひとむら一群の雲これ
 10 を受けて見えざらしめたり。10 彼らがなお天に昇り行き給うを眺めいたるほどに、びやくえ白衣の人二人、
 11 たちまち彼らのかたわらに立ちて言いけるは、11 ガリレア人よ、なんぞ天を仰ぎつつ立てるや、
 汝らを離れて天に上げられ給いしこのイエズスは、汝らがその天に行き給うを見たるごとく、ま
 たかくのごとくにして来り給うべし、と。

第二 使徒たちユダの後任者を選ぶ

12 使徒たちエルザレムに集まる 12 さて使徒たち、かんらん山と言える山よりエルザレムに帰り
 13 しが、この山はエルザレムに近く、安息日にも行かるべき道のりなり。⁵ 13 さて、入りて⁶ペトロと
 ヨハネ、ヤコボとアンデレア、フィリッポとトマ、バルトロメオとマテオ、アルフェオの子ヤコ
 14 ボとゼロテなるシモンと、ヤコボの兄弟ユダとの宿れる高間たかまにのぼりしが、14 彼らみな婦人たち⁷、
 および⁸イエズスの母マリア、およびイエズスの兄弟たち⁹とともに、心を同じゅうして堪え忍びつ
 つ祈りに従事しいたり。

15 ペトロ、ユダの後任者を選びしむ 15 そのころ、ともに集まれる人およそ百二十名なりしが、

16 ペトロ、兄弟のうちに立ちて言いけるは、16 兄弟の人々よ、イエズスを捕えし者どもの案内者¹⁰となりしユダにつきて、聖霊がダヴィドの口をもつて予言し給いたる聖書は、成就せざるべからず。17 彼はわれらの数に入りてこの聖役にあずかりたれども、18 不義の価をもつて焔を求め、(つるされて)うつぶしに倒れ、その身ただ中より裂けて腹わたことごとくほとぼしり出でたり。19 このことエルザレムの住民に知れ渡りて、この焔は彼らの言葉にてハケルダマ、すなわち血の焔と呼ばれたり。20 けだし詩の書に書きしるして、「彼の檻は荒れて、これに住む人なかるべし」、また「他人その務めを受くべし」とあれば、21 われらとともに集まれるこの人々のうちより、すべて主イエズス、キリストがわれらのうちに出で入りし給いし間、22 すなわちヨハネの洗礼より始め、われらを離れて上げられ給いし日に至るまで、いっしょにありし者の一人、われらとともにその復活の証人とならざるべからず」と。

23 マチアの当選 23 ここにおいて彼ら、バルサバと呼ばれ、義人とあだ名されたるヨゼフと、マチアとの二人をあげ、24 祈りて言いけるは、すべて人の心を知り給える主よ、ユダのおのが所に行かんとて退きしこの務めと使徒職とを引き受くべく、25 この二人のいずれを選び給えるかを知らしめ給え、と。26 かくて彼らにくじを与えしに、くじはマチアに当たりしかば、彼十一人の使徒に加えられたり。

① いわゆるルカ聖福音書。② マテオ 28・20、マルコ 16・15、ルカ 24・45、ヨハネ 20・21 ③ ルカ 12・12、24、49、ヨハネ 14・16、26、15・26、16・17 ④ あるいは洗めらる。⑤ その道のり二千肘(ちゆう)。すなわち、およそ一キロ。⑥ あるいは町に。あるいはは集会所に。⑦ マテオ 27・55、56、ルカ 8・2、3、24・22 ⑧ 殊にの意。⑨ マテオ 13・55 ⑩ ルカ 22・47 ⑪ マテオ 27・3、20 ⑫ 詩編 69(ラテン訳では 68)・26 ⑬ ラテン訳では監督職。⑭ 詩編

109 (ラテン訳では108)・8 ⑮ 生活し給うたの意。

第二款 聖霊降臨によりてエルザレムにおける聖会、創立せらる

第一 聖霊降臨

1 **第二章** 聖霊降臨のありさま 1 ペンテユステの日、至りしかば、みないっしょに集まりいける
 2 に、2 たちまちにして天より激しき風の来るがとき響きありて、彼らが坐せる家に満ちわたり、
 3 また火のごとき舌彼らに現われ、分かれて、おのおのの上に留まれり。4 かくてみな聖霊に満
 4-3 たされ、聖霊が彼らに言わしめ給うに従いて、種々の言語にて語り出でたり。
 5 ユデア人の驚き 5 しかるに敬虔なるユデア人らの、天下の諸国より来りてエルザレムに住め
 6 る者ありしが、6 この音の響きわたるや、群衆集まり来りて、いずれも使徒たちがめんめんの国
 7 語にて語るを聞きければ、一同に心騒ぎあきればて、7 驚き嘆じて言いは、見よ、かの語る人
 8 はみなガリレア人ならずや、8 いかにしてわれらおのおの、わが生国の言葉を聞きたるぞ、と。
 9 9 パルト人、メド人、エラミト人、またメソポタミア、ユデア、カバドキア、ポント、「小」ア
 10 ジア、10 フリジア、パンフィリア、エジプト、クレネに近きリビア地方に住める者、およびロマ
 11 寄留人、すなわち、11 ユデア人もユデア教に帰依せし人も、クレタ人もアラビア人も、彼らがわ
 12 が国語にて神の大業を語るを聞きたるなり。12 さればみな驚き嘆じて、こは何ごとぞ、と語り合
 13 いけるが、13 あるいはあざ笑いて、彼らは酒に酔えり、と言う人々もありき。

第二 ペトロの説教

14 説教の発端 14 ここにおいてペトロ十一人とともに立ち上がり、声をあげて人々に語りけるは、
 ユデア人およびすべてエルザレムに住める人々よ、汝らこれを知らざるべからず、耳を傾けてわ
 15 が言葉を聞け。15 時はなお朝の第九時⁵なれば、この人々は汝らの思えるごとく酔いたるにあらず、
 16 16 これ予言者ヨエルをもって言われしことなり、いわく「主、のたまわく、末の日ごろに至らば、
 17 わが霊をすべての人の上に注がん、17 かくて汝らの子女は予言し、汝らの青年たちは幻^{まぼろし}を見、汝
 18 らの老人らは夢みるべし、18 またわがしもべ、はしためらの上にも、かの日ごろに至りてわが霊
 19 を注がん、かくて彼らは予言すべし。19 われまた上^{かみ}は天に不思議を、下^{しも}は地に印を与えん、すな
 20 わち血と火と煙の柱とあるべし、20 主の大いにして明白なる日の来らざる前に、日は暗闇となり、
 21 月は血とならん、21 かくて主のみ名を呼び頼まん人みな救⁷わるべし」と。
 22 その第二分 22 イスラエル人よ、これらの言葉を聞け。ナザレトのイエズスは、汝らも知れる
 23 ごとく、神がこれをもって汝らのうちに行ない給いし奇跡と不思議と印とをもって、神より汝ら
 24 のうちに証明せられたる人にして、23 神の予定のおぼしめしと予知とによりて渡されしを、汝ら
 25 不法^{ふほうじん}人の手をもってこれをはりつけにして殺したるなり。24 彼、冥府^{よみ}に留めらるることあたわざ
 26 りければ、神、冥府^{よみ}の苦を解きてこれを復活せしめ給えり。25 けだしダヴィドこれをさしていわ
 26 く、「われは絶えずわが前に主を見奉りたり、そはわが動かざらんために、主、わが右にましま
 26 せばなり。26 ゆえにわが心はうれしく、わが舌^{した}は喜びに堪えず、しかのみならず、わが肉体もま

27 た希望のうちには休まん。27 そは汝、わが魂を冥府よみに捨て置き給わず、汝の聖なる者に腐敗ふはいを見せ給うことなかるべければなり、28 汝、生命の道をわれに知らせ給えり、また御顔をもってわれを喜びに満たし給うべし」と。29 兄弟の人々よ、太祖ダヴィドにつきて、はばからずこれを言わしめよ。彼は死して葬られ、その墓は今日こんにちに至るまでわれらのうちに存す。30 すなわち彼は予言者にして、神これに誓いを立て、その子孫のうちより一人いちにんその座につくべし、と約し給いしことを知りいたれば、31 先見せんけんしてキリストの復活を示し、その冥府よみに捨ておかれざりしことと、その肉体の腐敗ふはいを見ざりしこととを語りたるなり。32 神はこのイエズスをば復活せしめ給えり、われらはみなその証人なり。33 さればこそ神の右の御手みでをもって上げられ、かつ父より聖霊の約束を受けて、汝らの見、かつ聞けるこの聖霊を注ぎ給いたるなれ。34 けだしダヴィドは天に昇りしにあらざれども、自ら言えらく「主、わが主にのたまえらく、35 われ汝の敵を汝の足台あしだいとならしむるまで、わが右に坐せ」と。36 されば、汝らが十字架にはりつけしこのイエズスをば、神が主となし、キリストとなし給いしことを、イスラエルの家こぞりて最も確かに知らざるべからず、と。

第三 その説教の結果

37 聴聞者ちやうもんしやの感動 37 人々これらのことを聞きて心を刺され、ペトロおよび他の使徒たちに向かい、兄弟の人々よ、われら何をなすべきぞ、と言ひければ、38 ペトロ言ひけるは、汝ら改心かへこころせよ、かつ罪を許されんために、おのおのイエズス・キリストのみ名によりて洗せらるべし、さらば聖霊の賜ものを得ん。39 けだし約束は汝らのためにして、また汝らの子ども、およびすべて、はるか

40 に遠ざかれる人、われらの神たる主の召し給えるいっさいの人のためなり、と。40 ペトロこのほ
か、なお多くの言葉をもって人々を服せしめ、かつ勧めて、汝ら、このよこしまの時代より救い
出だされよ、と言いいたり。

41 ちよつもんしや かいしゆう 聴聞者の改宗 41 かくて彼の言葉を受けし人々洗せられしが、即日弟子の数かずに加わりし者、お

42 よそ三千人なりき。42 さて堪え忍びて、使徒たちの教えと共同生活と、パンを裂くことと¹²祈禱と
43 に従事しいたりしが、43 やがて人みな心に恐れを生じ、また使徒たちによりて多くの不思議と印
とエルザレムに行なわれければ、一般の人々、大いに恐れをいだきいたり。

45-44 最初の信者の風俗 44 かくて信仰せる人々、すべていっしよにありて何ものをも共有にし、45
46 動産不動産を売り、めんめんの用に応じて一同に分かちつつ、46 なお毎日心を同じくして長時間
47 「神」殿におり、家々にパンを裂きて喜びと真心まごころとをもって食事をなし、47 もろともに神を賛美し
奉りて人民一般の心を得たり。さて、かくのごとくにして救わるる人を、主日々増加にちもちせしめ給い
つつありき。

① すなわち過ぎ越しの祭が終わつてのち五十日目。② あるいは宗教家。③ もと異邦人であつて。④ あるいは干ぶど
うで作つた甘酒。⑤ 原文には三時。⑥ ユデア人は朝食に酒を飲まなかつた。⑦ ヨエル 2・28-32 ⑧ 詩編 16 (ラテン
訳では 15)・8-11 ⑨ 全能の意。⑩ 詩編 109・1 ⑪ ラテン訳では悔悛。⑫ 聖体拝領のことである。

第三款 聖会の発展

第一 ペトロ、生まれつきの足なえを全癒せしむ

2-1

第三章

足なえぜんゆ全癒ぜんゆの事実

1 午後三時の祈禱にペトロとヨハネと「神」殿にのぼれるに、2 ここに生まれながら足なえたる一人の男、「神」殿に入る人々に施しをこわんとて毎日美門ひもんと言え
 3 する「神」殿の門にかきすえられてありしが、3 ペトロとヨハネとの「神」殿に入らんとするを見
 4 て施しをこいければ、4 ペトロ、ヨハネとともにこれを眺めて、われらを見よ、と言いけるに、
 6-5 5 彼、何ものをかもらわん心がまえにて彼らを見つめいたりしかば、6 ペトロ言いけるは、われ
 に金銀きんぎんなし、されど、わが持てる物をば汝に与えん、ナザレトのイエズス・キリストのみ名によ
 7 りて立ちて歩め、と。7 すなわち、その右の手を取りてこれを起こしたるに、その脛すねおよび足裏
 8 ただちに力づきて、8 おどり立ちて歩みしが、かつ歩み、かつ踊り、かつ神を賛美しつつ彼らと
 ともに「神」殿に入れり。

10-9 事実の証人 9 人民みな彼が神を賛美しつつ歩めるを見しが、10 その、かつて「神」殿の美門ひもん
 に坐して施しをこいいたりし者なるを知れば、これが上になりしことに驚き入りて、感嘆に堪え
 11 ざりき。11 かくて彼、ペトロとヨハネとの手を握りいたれば、人民みな驚きつつサロモンと呼ば
 れたる殿廊をさして彼らのもとに馳せつどえり。

第二 ペトロ、神殿にて談話す

12 ペトロの談話 12 ペトロこれを見て人民に答えけるは、²イスラエル人よ、何ぞこのことを驚く
 や、また何ぞ、あたかもわれわれの徳もしくは力によりてこの人を歩ませしがごとくに、われら
 13 を眺むるや。13 アブラハムの神、イザアクの神、ヤコブの神、われらの先祖の神が、その御子イ

エズスに光栄を着せ給いしなり、これすなわち汝らが渡して、ピラトのこれを許すべしと判定せるを、その面前に否みし者なり。14 汝ら聖なる者、義なる者を否みて、人殺しを許されんことを求め、15 かえって生命いのちの造り主を殺ししに、神はこれを死者のうちより復活せしめ給えり、われらはその証人なり。16 彼のみ名における信仰によりて、そのみ名は汝らの見かつ知れるこの人を力づかしめたり。イエズスによれる信仰こそ、汝ら一同の前にかかる全癒ぜんゆを得させたるなれ。17 兄弟たちよ、われ今にして知る、汝らの司つかさたちがなししに等しく、汝らが不知ふちによりてこれをなししことを。18 されど神は、もろもろの予言者の口をもって、あらかじめキリストの苦しむべきことを告げ給いしを、かくのごとくにして全うし給いしなり。19 されば汝ら罪を消されんために、改心して立ち帰れ。20 これまた主のみ前よりすしめ3の時来りて、予定4せられ給いしイエズス・キリストを汝らに遣わし給わんためなり。21 天はまずこれを受けざるべからず、これ世の初めより神がその聖なる予言者たちの口をもって告げ給いし万物の回復の時代に至るまでの間なり。22 すなわちモイゼいわく「汝らの神なる主は、汝らの兄弟のうちより、わがごとき一人の予言者を汝らに起こし給わん、その汝らに語らんほどのことは汝らことごとくこれを聞くべし、23 かくて、すべてこの予言者に聞かざる人は必ず人民のうちより滅ぼさるべし5」と。24 サムエル以来語りし予言者、みなこの日のことを告げたり。25 汝らは予言者たちの子どもなり、また神が「地上の諸族ことごとく汝の末をもって祝せられん6」、とアブラハムにのたまいて、われらの先祖になし給いし契約の子どもなり。26 神は、まず汝らのためにこそ御子を起こして汝らを祝福し給う者を遣わし給いしなれ、これ、おのおの自らその不義より立ち帰らんためなり、と。

- ① 原文には九時。② 話すにはの意。③ キリスト再臨後の永遠の福樂をさすのдарう。④ ラテン訳では汝らに宣教。
⑤ 申命記18・15、19、使徒行録7・37、ヨハネ5・45、46 ⑥ 創世記22・18、ガラチア書3・8、16

第三 ペトロおよびヨハネ衆議所においてキリストを証す

2-1 **第四章** ペトロ、ヨハネ拘留せらる 1 ペトロとヨハネと人民に語りつつおりしに、2 司祭たちと神殿の司つかさとサドカイの人々と来り、彼らが人民を教え、かつイエズスにおける死者の復活を説くことを深く憂いて、3 彼らを捕え、日すでに暮れければ、翌日まで拘留したり。4 されど言葉を聞きたりし人々、多くは信仰して、男子の數かず五千人に及べり。

5 兩人、衆議所に出頭す 5 明くる日、司祭長*1、長老*2、および律法学士*3ら、エルザレムに集会するることとなりしが、6 アンナ大司祭もカイファも、ヨハネもアレキサンデルも、また大司祭2の族もことごとくともまんなかにありき。7 かくてペトロとヨハネとを真中に立たせて、汝らいかなる力、いかなる名によりて、このことを行ないしぞ、と問いかけたり。

8 ペトロの答弁とうべん 8 その時ペトロ、聖靈に満たされて彼らに言いけるは、聞けや民の司つかさたち、長老たち、9 われらが癡疾者に対する善業につき、その何によりていやされしかを尋問じんもんせらるるなれば、10 汝ら一同およびイスラエルの人民こそりてこれを知れ、かの人が壮健にして汝らの前に立てるは、これわれらの主ナザレトのイエズス・キリスト、すなわち汝らがこれを殺し、神がこれを死者のうちより復活せしめ給いし者のみ名によるなり。11 これぞ汝ら家を建つる者に、ないがしろにせられたる石にして、隅すみの親石とせられたる者3なる。12 その他の者によりては救靈たすかりある

ことなし、そはわれらが、よつて救かるべき者として人に与えられし名は、天下にまた、これあらざればなり、と。

13 **会長の当惑** 13 会衆は彼らが無学の凡人なることを、かねてわきまえたれば、ペトロおよびヨハネの泰然たるを見て、これを怪しみ、また、かねて彼らがイエズスに伴いたりしことをも知り、
 15-14 14 いやされし人の、現に彼らとともに立てるを見て、一言もこれに対して言うことあたわず、
 16 命じて彼らを衆議所より退け、ともに評議して、16 言いけるは、かの人々を、いかに処分すべきぞ、けだしエルザレムの人民一同に知れわたりたる奇跡は、彼らによりて行なわれ、明白にして、
 17 われら、これを拒むことあたわず、17 されど、そのいっそう民間に広まらざらんために彼らを脅かして、いかなる人にも、再びかの名をもって語ることなからしむべし、とて、18 彼らと呼ばひ、
 19 いっさいイエズスの名をもって語りかつ教うることなかれ、と戒めたり。19 されどもペトロ、ヨハネは答えて、汝らに聞くは神に聞くよりも神のみ前に正当なりや、汝ら、これを判ぜよ、20 けだし、われらは見聞きせしことを語らざるを得ず、と言えり。21 さて、かの行なわれしことにつきて、人みな神をあがめ奉るにより、彼らは人民に対して使徒たちを罰するに術なく、脅かして
 22 これを帰せり。22 けだし、かの全癒の奇跡の行なわれし人は四十歳以上なりき。
 23 **ペトロとヨハネとの放免** 23 二人は許されて友のもとに至り、司祭長、長老らの言いしほどのことを、つぶさに告げしかば、
 24 24 彼らはこれを聞いて神に向かい、異口同音に声をあげて言いけるは、主よ、天、地、海、およびそのうちのあらゆるものを造り給いしは主なり。25 主は聖霊によりて、主のしもべにして、われらの先祖たるダヴィドの口をもって、「何ゆえに異邦人は、奮

26 い起こり、人民らは、いたずらごとを計りしぞ、26 地上の国王は立ち、諸侯は一致して、主およびそのキリストに逆らえり、とのたまひしが、27 はたしてヘロデおよびポンシオ・ピラトは、異邦人^{*}、イスラエルの諸族とともに、この都に集まりて、主の注油し給ひし聖なる御子イエズスに逆らい、28 み手およびみ旨の定め給ひしことをなせり。29 主よ、今や彼らの脅かしを顧み、しもべらに賜うに、御言葉をはばからず語ることをもってし給ひ、30 み手をのばして、⁵聖なる御子イエズスのみ名によりて、治癒^{ちゆ}と印と不思議とを行なわせ給え、と。

31 祈りの結果 31 祈り終われる時、彼らの集まれる所、震動し、みな聖靈に満たされて、はばかるところなく神の御言葉を語りいたり。

第四款 神、聖会を保護し給う

第一 初代信者の徳

32 信徒の一致 32 そもそも信者の群衆は同心同意、一人も、その持てる物を、おのがものと言わず、何ものをもみな共有にし、33 使徒たちもまた大いなる力をもつて、わが主イエズス・キリストの復活を証し、大いなる恩寵彼ら一同の上にあるにありき。34 けだし彼らのうちには一人も乏^{とほ}しき者あらず、そはすべて、畑^{はた}または家を持てる人はこれを売りて、その売れる物の価を持ち来り、35 これを使徒たちの足もとに置いて、めんめんその用あるに従いて分け与えらるればなり。36 ここにクプロ〔島^{しま}〕生まれなるレヴィ族の人ヨゼフは、使徒たちよりバルナバ、訳して慰めの子と呼ば

37 れたるが、37 畑はたの有りしを売りて、その価を持ち来り、これを使徒たちの足もとに置きけり。

① ラテン訳では彼らの司たち。② ラテン訳では司祭。③ 詩編118 (ラテン訳では117)・22、マテオ21・42と45、ペトロ前書2・7 ④ 詩編2・7、本書13・33、ヘブレオ書1・5、5・5 ⑤ 全能を表わしての意。

第二 アナニアとサファイラとの事件

第五章

事情

1 しかるにアナニアと呼ばれる人、その妻サファイラとともに一枚の畑はたを売りしが、
3-2 妻も同意にて畑の価を偽り、2 その幾分を持ち来りて使徒たちの足もとに置きしかば、3 ペトロ
言いけるは、アナニアよ、何ゆえサタン*に心をいざなわれて聖霊を欺き、畑の価を偽りたるぞ。

4 4 その畑のありし時は汝のものにして、売られてのちも「価は」汝の権内に属したるにあらずや、
何ぞ、かかることを心に企てしぞ、汝の欺きしは人にあらずして神なり、と。

5 アナニア死す、5 アナニアこの言葉を聞くや倒れて息絶えしかば、聞きたる人みな大いに恐れ
6 をいただき 6 青年ら立ちてこれを取り上げ、かき出だして葬れり。

8-7 妻も死す 7 およそ三時間を経て、その妻、事の起こりしを知らずして入り来るに、8 ペトロ
これに言いけるは、女よ、汝らが畑を売りし金は、それだけなるか、われに告げよ、と。彼、し
9 かり、それだけなり、と答えしかば、9 ペトロこれに向かい、汝ら何すれぞ共謀きようぼうして主の霊を試
みんとしたるや。見よ、汝の夫を葬りし人々の足は戸口にあり、汝をもかき出だすべし、と言ひ
10 ければ、10 女たちまちその足もとに倒れて息絶えたり。青年ら入り来りて、その死せるを見、こ
11 れをかき出だして夫のかたわらに葬りければ、11 全教会およびこれらのことを聞ける人々、みな

大いに恐れをいだけり。

第三 使徒たち奇跡を行ないて信者の数増加す

12 使徒の奇跡 12 あまたの印と不思議とは、使徒たちの手によりて民間に行なわれ、「信者」みな心を一つにしてサロモンの殿廊でんろうにありしが、13 他人はあえて、このうちに交わる者なく、人民彼らを賞賛して、14 主を信仰する男女の群衆ますます増加し、15 ついには人々病人を巷ちまたにかき出だし、ペトロの来らん時、一人にもあれ、その陰になりともおおわれ（て病をいやされ）んとて、16 寝台ねだいもしくはかき台に、これをのせおくに至り、16 また近傍きんぼうの町々より病人、あるいは汚鬼おきに悩まさるる者どもを携えて、人々おびただしくエルザレムに馳せつどいいたりしが、彼らことごとくいやされつつありき。

第四 迫害起こりて使徒たち、ますます奮発す

17 使徒たちの拘留こうりゅう 17 されば司祭長*およびその徒輩ともがら、すなわちサドカイ派*、みな妬ねたましさに堪えず、18 立ちて使徒たちを捕え、これを監獄に入れたり。19 されど主の使1、夜中やちゆうに監獄の門を開きて彼らを出だし、20 汝ら行きて「神」殿に立ち、この生命の言葉をことごとく人民に語れ、と言いしかば、21 彼らこれを聞き、夜明けに「神」殿に入りて教えたり。さて司祭長およびこれに伴いえる人々、議員およびイスラエル人の長老一同を「衆議所に」召集し、使徒たちを引き来らせんとて人を監獄に遣わししに、22 下役したやくども至りて監獄を開き、彼らのあらざるを見て立ち帰り、告

23 げて、23 言いけるは、監獄が固く閉じ、看守が門前に立てることは、われらこれを見とどけたれども、これを開けば内にはたれも見えざりき、と。

24 司祭長らの当惑^{とうわく} 24 神殿の司^{つかさ}および司祭長、これらの物語を聞くや、使徒たちにつきて、その成り行きいかにと当惑せるに、25 ある人來りて、汝らが監獄に入れし人々は、今「神」殿に立ちて人民を教えつつあり、と告げしかば、26 神殿の司^{つかさ}、下役どもを従え行きて使徒たちを連れ來れり、されど人民より石を投げ打たれんことを恐れて暴力を加うることもなかりき。

28-27 使徒たちの尋問^{じんもん} 27 さて連れ來りて議会のうちに立たせ、司祭長尋問して、28 かの名によりて教うることなかれとは、われらが、きびしく命せしところなるに、汝らはその教えをエルザレムに満たし、かの人の血²をわれらに負わしめんとするにあらずや、と言いしかば、29 ペトロおよび使徒たち答えて言いけるは、われらは人に「従う」よりは神に従わざるべからず。30 われらが先祖の神は、汝らの木にはりつけて殺ししイエズスを復活せしめ給えり。31 神は改心³と罪の許しとをイスラエルに賜わんために、右の御手をもつて⁴イエズスを君とし、救い主として立て給いしなり。32 われらは、これらのことの証人にして、神が、すべておのれに従う人々に賜えるところの聖靈もまた、これを証し給うなり、と。

33 ガマリエルの意見 33 会衆これを聞きて憤りに堪えず、使徒たちを殺さんと思ひいたりしが、34 人民一般より尊ばるる律法学士ガマリエルと言えるファリサイ人、議会に立ち、命じて使徒たちをしばらく外に立たしめ、35 会衆に言いけるは、イスラエル人よ、自らかの人々になさんとするところを慎しめ、36 そは、この間、テオダ⁵なる者起こりて、自ら人物^{じんぶつ}と稱し、これにくみせ

37 無となれり。37 そののち人別調べの時、ガリレアのユダ起こりて人民をいざない、おのれに従わ
 38 しめしが、彼も滅びたれば、これにくみせし人は、ことごとく散りたりき。38 今もわれ汝らに言
 わん、かの人々に遠ざかりてこれをさしおけ、そは、その計画もしくは事業、人よりのものなら
 39 ばくずるべく、39 神よりのものならば汝らこれをくずすことあたわずして、恐らくは神にも逆ら
 40 う者とせらるべければなり、と。会衆これに賛成して、40 使徒たちを呼び出だし、これをむち打
 ちてのち、イエズスの名によりて語ることを厳禁して帰せり。
 41 使徒たちの喜び 41 使徒たち、イエズスのみ名のために恥辱を受くるに足る者とせられしを喜
 42 びつつ会衆の前を去りしが、42 日々神殿にて、または家々を巡りて人を教え、キリスト・イエズ
 スの福音を述べてやまざりき。

① 天使の意。② イエズスの意。③ ラテン訳では悔い改め。④ 全能をもつての意。

第五款 聖ステファノの殉教

第一 執事の選挙

1 **第六章** 執事の理由 1 そのころ弟子の数の加わるに従い、ギリシア語のユデア人、その寡婦

2 らが毎日の施しにもらされたりとて、ヘブレオ語のユデア人²に対してつぶやくに至りしかば、2
 十二使徒、あまたの弟子を呼び集めて言いけるは、われらが神の御言葉をさしおきて食卓に給仕す

3 するは道理にあらず。3 ゆえに兄弟たちよ、汝らのうちより聖霊と知慮ちりよとに満ちて好評ある者七人
4 を選め、われらこれに、この事務をつかさどらしめ、4 自らは祈祷と宣教とに身をゆだねん、と。
5 選挙じよひんしきおよび叙品じよひんしき式 5 この言葉、群衆一同の心にかないしかば、信仰と聖霊とに満てるステフ
アノならびにフィリップ、プロコロ、ニカノル、チモン、パルメナ、またユデア教に帰依きえしたり
6 シアンチオキアのニコラを選みて、6 使徒たちの前に差し出だしたるに、使徒たちは祈祷しつつ、
これにあんしゆ*按手せり。

7 聖会の盛況 7 かくて主の御言葉、ますます広まり、エルザレムにおいて弟子の数の増かずすこと
非常にして、司祭の信仰に帰服したる者もまたおびただしかりき。

第二 ステファノ、衆議所に引かる

8 ステファノの徳 8 かくてステファノは恩寵と勇氣とに満ちて大いなる奇跡と印とを人民のう
9 ちに行ないいたりしが、9 ある人々は、いわゆる被解放ひかいほうしや者の会堂、およびクレネ人、アレキサン
ドリア人、およびシリシアと「小」アジアとの出身者の諸会堂より立ちて、ステファノと争論す
11-10 れども、10 彼の知恵と彼において語り給える聖霊とに抵抗することあたわざりき。11 されば彼ら、
ある人々を教唆きようさくして、われらは彼がモイゼ*と神とを冒瀆ぼうとくする言葉を出だせるを聞けり、と言わし
12 め、12 ついに人民と長老*と律法学士*とを煽動せんどうして、いっせいに飛びかかりてこれを捕え、衆議所
13 に引き出だし、13 偽証人を立てて言わせけるは、この人は聖所せいじよ*と律法*とに反する言葉を語りてや
14 まず、14 すなわちわれらは、かのナザレトのイエズス、この所を滅ぼし、モイゼのわれらに伝え

15 し例れいを変かうべし、と彼が言うを聞けり、と。15 かくて議ぎ会かいに列れい座ざせる人、一同に目を注つぎてステ

ファノを見れば、その顔あたかも天使の顔のごとくなりき。

①すなわちギリシア国などに生まれたユデア人。ラテン訳ではギリシア人。②すなわちパレスチナのユデア人、ラテン訳ではヘブレオ人。

第三 ステファノの説教

2-1 **第二章** 太祖たいその略りやく史し 1 時に司祭長、これらのこと、はたしてしかるか、と言いしかば、2 ス

テファノ言いけるは、聞きかれよ、兄弟にして父たる人々、われらの父アブラハム、*カランに住居じゆうきよするに先立ちて、メソポタミアにありし時²、光栄の神これに現あわれて、3 のたまいけるは、汝、4 国を去り親族を離れて、わが示さん地に至れ³、と。4 かくてアブラハム、カルデア人の地を出でてカランに住みしが、その父の死後、神はかしこより汝らが現あに住める地に彼を移し給たまひ、⁴5 足踏あみ立つるばかりの地だに、その地にては遺産を賜わざりき。されどその地を所有としてこれに与え、その時は、いまだ子あざりしも、あとを子孫に与えんことを約し給たまひ、⁵6 神これにのたまいけるは、「その子孫は他国に住み、人々これを奴隷となし、四百年の間虐待ぎやくたいせん、7 されども、われ彼らの仕えしところの国民を裁くべし、かくてのち彼らその国を出でて、ここにわれを礼拝せん、と主のたまえり⁶、と。8 アブラハムなお割礼かうれいの契約を賜わりしかば、イザアクを生みて八日目にこれに割礼をほどこし、⁷イザアクはヤコブを生み、ヤコブは十二人の太祖たいそを生めり⁸。9 太祖たち妬みて⁹ヨゼフをエジプトに売りたれど、神これとともにましまして、¹⁰10 すべての患難より

救い出だし、エジプト国王ファラオンより寵愛を得させ、かつ知恵を賜いしにより、ファラオンはエジプトとおのが家とをあげてこれにつかさどらしめたり。¹¹しかるに全エジプトおよびカナアンに飢饉^{ききん}と大いなる災難と起こり、われらの先祖、食物を求め得ざりしに、¹²ヤコブ、エジプトに麦あるを聞きて、まずわれらの先祖たちを遣わし、¹³次のたびにヨゼフその兄弟に知られ、その族は^{やから}ファラオンに知られたり。¹⁴ヨゼフ人を遣わして、父なるヤコブおよびその家族、すべて七十五人を呼び来らせしにより、¹⁵ヤコブ、エジプトにくだり、その身もわれらの先祖たちも、かしこに死して、¹⁶シケムに送られ、アブラハムが、かつてシケムにおいて、¹⁴ヘモルの子どもよ¹⁷り銀錢^{ぎんせん}をもつて買い受けし墓地に葬られたり。¹⁷かくて神のアブラハムに誓い給いし約束の時近づきしに、民の数増して大いにエジプトに繁殖したれば、¹⁸ヨゼフを知らざる他の王起こるに及びて、¹⁹悪計^{あくけい}をもつてわれらの種族に当たり、われらの先祖を悩まして、その生まれ子のながらえざらんために、これを捨てしめたり。¹⁶

モイゼの小伝^{しよつでん} ²⁰モイゼ^{*}この時にあたりて生まれたりしが、¹⁷神に美しくして、¹⁸父の家に育てらるること三月、²¹さて、ついに捨てられしをファラオンの娘取り上げて、¹⁹おのが子として養育したり。²²かくてモイゼはエジプト人の學術をことごとく教えられ、²⁰言行^{げんこう}ともに力ありしが、²³満四十歳の時、おのが兄弟たるイスラエルの子孫を顧みんと心起こり、²⁴ある人の害せらるるを見てこれを防ぎ、エジプト人を討ちて、被害者の仇^{あだ}を返せり。²⁵モイゼは兄弟たちが、神のわが手によりて、おのれらを救い給うべきを必ず悟るならんと思ひしに、彼らこれを悟らざりき。²⁶翌日彼らの相争える所に現われて和睦^{わぼく}を勧め、²¹人々よ、汝らは兄弟なるに何ぞ相害^{あいがい}するや、と言

27 いしかば、27その近き者を害せる人、これを押しつけて言いけるは、たれか汝を立てて、われら
 28 の司つかさとし裁き手とせしぞ、28汝は昨日エジプト人を殺ししごとく、われを殺さんとするか、と。
 29 この言葉によりモイゼ脱走してマジアン地方に旅人たびびととなり、かしこにて二人の子をあげたり。
 30 四十年を経てシナイ山の荒野あれのにおいて、燃ゆる茨の炎ほのおのうちに天使これに現われければ、31モ
 31 イゼ見て、その見るところを怪しみ、見とどけんとして近づきけるに、主の声ありてのたまわく、
 32 32われは汝の先祖たちの神、すなわちアブラハムの神、イザアクの神、ヤコブの神なり、と。モ
 33 イゼ震いおののきて、あえて眺め見ず、33主これにのたまわく、足のはきものをぬげ、汝の立て
 34 る所は聖地なればなり、34われはエジプトにある、わが民の悩みを顧み、その嘆きを聞きて彼ら
 35 を救わんためにくだれり、いざ来れ、われ汝をエジプトに遣わさん、と。35かくて彼らが、たれ
 36 か汝を立ててわれらの司つかさとし裁き手となししぞ、と言いて拒みしこのモイゼをば、神は茨のうち
 36 に現われし天使の手をもって司つかさとし、救い手として遣わし給いしなり。36モイゼ彼らを導き出だ
 37 して、エジプトの地24に、紅海25に、また荒野あれのに、四十年の間、奇跡と印とを行ないしが、37これぞ
 37 イスラエルの子らに向かいて、神は汝らのうちより、わがごとき一人の予言者を起こし給わん、
 38 汝らこれに聞くべし、²⁷と言いしそのモイゼなる。38これすなわち、かつて荒野あれのに会かいせし時、シナ
 イ山にてともに語りし天使およびわれらの先祖とともにありし人、われらに授くべき生命の言葉
 39 を授かりし人なり。39われらの先祖はこれに従うことを拒み、かえって彼を退けて心をエジプト
 40 に転28じ、²⁹40アアロンに言えらく、汝はわれらに先んずべき神々をわれらのために作れ、けだし、
 われらをエジプトの地より導き出だしし、かのモイゼにつきては、そのいかになりしかを知らず、³⁰

41 と。41 かくて彼ら、その時にあたりて小牛を作り、偶像くわうぞうに犠牲いけにえを献げ、おのが手の業わざによりて喜
 42 びたりしかば、42 神は彼らを顧み給わず、その天軍に仕うるに任せ給えり。³¹すなわち予言者たち
 の書に書きしるしたるがごとし、「いわく」「イスラエルの家よ、汝ら荒野あれのにおいて四十年の間、
 43 犠牲いけにえと供え物とをわれに献げしか、43 汝らはモロクの幕屋、および汝らの神とせるレンファの星ほし
 形がた、すなわち礼拝せんとて自ら作れる姿をかきまわれり、されば、われ汝らをバビロンのかなた
 44 に移すべし」と。³²
 44 モイゼ以後のこと 44 そもそも証明の幕屋は、われらの先祖とともに荒野あれのにありて、神がモイ
 45 ゼに語りて、自ら見たりし式かたに従いてこれを作れ、と命じ給いしごとくなりき。45 かくて異邦人、
 すなわち神がわれらの先祖の面前に追ひ払い給いし民の国を占有せし時に、われらの先祖は、こ
 46 の幕屋を取りて、ヨズエとともにこれを携え入りて、ダヴィドの時代に至りしが、46 ダヴィドは
 47 神のみ前に寵ちやうを得て、ヤコブの神のために住み家を設けんことを願ひければ、47 サロモンは神の
 49-48 家を建てたり。³³48 されど、いと高きものは、手にて作れる所に住み給うものにあらず、49 すなわ
 ち、「主のたまわく、天はわが座なり、地はわが足台なり、汝らいかなる家をか、われに作らん、
 50 わが休む所はいずこなるか、50 これ、みなわが手の造りたるものならずや」³⁴と予言者の言えるが
 51 ごとし。51 首こわくして心にも耳にも割礼なき者よ、いつも聖霊に逆らうこと、汝らの先祖のな
 52 ししごとく、汝らもまたしかす、52 汝らの先祖は予言者のうちのいずれをか迫害せざりし、彼ら
 は義者35の来臨を予言せる人々を殺したるに、汝らは今、この義者をば売り、かつ殺したる者とな
 53 れり。53 また天使によりて律法を受けしも、汝らはこれを守らざりき、と「述べたり」。

第四 ステファアノの最期

54 聴聞者の憤懣ちやうもんしや ちんまん 54 これらのことを聞きて人々の胸は裂くるがごとく、ステファアノに向かいて齒
55 がみすれども、55 彼は聖霊に満ちたれば、天を仰ぎて神の光栄と神の右に立ち給えるイエズスと
56 を見て、56 言いけるは、見よ、われ天開けて、人の子が神の右に立ち給えるを見奉る、と。
58-57 ステファアノ石殺しに会う 57 その時彼ら耳をおおい、声高く叫びつつ一同に打ちかかり、58 ス
テファアノを町より追い出だして石を投げ打ちしが、立会人たちあいにんはサウロと言える若者の足もとに、お
59 のが上着を置きり。59 かくて彼らが石を投げ打つほどに、ステファアノ祈り入りて言いけるは、主
60 イエズス、わが魂を受け給え、と。60 また、ひざまずきつつ声高く呼ばわりて言いけるは、主よ、
この罪を彼らに負わせ給うことなかれ、と。かく言い終わりて主に眠りけるが、サウロ36は彼の死
刑に賛成したりき。

① 先祖の意。 ② 創世記11・31 ③ 創世記12・1 ④ 創世記12・11 ⑤ 創世記12・7、13・15 ⑥ 創世記15・13、
14、出エジプト記3・12 ⑦ 創世記21・1~4 ⑧ 創世記25・19~25、29・31~30・24、35・16~18 ⑨ 創世記37・
4、5 ⑩ 創世記39・2、21、23 ⑪ 創世記39~41 ⑫ 創世記42・1~2、45・27 ⑬ 創世記49・29~32、50・25
⑭ ラテン訳ではシケムの子なる。⑮ 出エジプト記1・7、12、12・37 ⑯ 出エジプト記1・22 ⑰ 出エジプト記2・
1~10 ⑱ 殊に美しくての意。⑲ 出エジプト記2・5 ⑳ 出エジプト記4・18 ㉑ 出エジプト記2・13 ㉒ 出エジプ
ト記2・15 ㉓ 出エジプト記3・2 ㉔ 出エジプト記5~12・36 ㉕ 出エジプト記12・37~15・21 ㉖ 出エジプト記
15・22~40 ㉗ 申命記18・15 ㉘ 民数紀略14・4 ㉙ 出エジプト記16・3、民数紀略11・4、5 ㉚ 出エジプト記32
・1 ㉛ ① ③① ロマ書1・24 ③② アモス5・25~27 ③③ 列王記略上6・1~38 ③④ イザヤ66・1、2 ③⑤ キリストを言う。
本書3・14、22・14、ヨハネ一書2・1 ③⑥ パウロのものと名。

第五 激しき迫害起こる

第八章

エルザレム教会の景況^{けいきやう} 1 その日、エルザレムの教会に対して大いなる迫害起こり、
 2 使徒たちのほかは、みなエデアおよびサマリアの各地方に離散せしが、^{とむらい} 3 敬虔なる人々ステファ
 ノを葬り、彼のために大いなる甲^{とむらい}をなせり。 4 敬虔なる人々ステファ
 ノを葬り、彼のために大いなる甲^{とむらい}をなせり。 3 さてサウロは教会を荒らし、家々に入りて男女を
 4 引き出だし、これを渡して拘留せしめつつありしが、^{とむらい} 5 離散せる人々は行き巡りて神の御言葉の
 福音を述べ伝えつつありき。

第二項 教会、異邦人のうちに広まらんとす

第一款 サマリア人およびエチオピアの^{えんじや}闇者に及ぼせる感化

第一 ファリッポのサマリアにおける布教の功績

5 ファリッポ、サマリアに布教す 5 さてファリッポ、サマリアの都会¹にくだりてキリストのこ
 とを述べければ、6 人々心をそろえてファリッポの言うところを聞きすまし、そのなせる印を見
 7 いたり。7 すなわち多くの汚鬼^{おき}、そのつきたる人々のうちより声高く叫びつつ出で、また中風者
 8 と足なえとのいやされたる者多かりければ、8 かの町に大いなる喜びとなれり。
 9 魔術者シモン 9 ここにシモンと言える人あり、かねて、かの市中に魔術を行ないてサマリア

10 の人民をまどわし、自ら大人たいじんと称し、10 小より大に至るまで人みなこれに帰服きふくして、いわゆる大
 11 神力しんりきとは、この人なり、と言いいたりしが、11 人々の彼に帰服せるは、久しくその魔術に心を奪
 12 われたるゆえなりき。12 されどフィリップが神の国につきて述ぶる福音を信じて、男女ともにイ
 13 エズス・キリストのみ名によりて洗せられければ、13 シモン自らも信じて洗せられ、フィリップ
 のかたわらを離れず、印と最も大いなる奇跡との行なわるるを見て驚嘆しいたり。

第二 サマリアにおけるペトロおよびヨハネの聖役せいえき

14 サマリア人、堅信けんしんの秘跡ひせきを受く 14 さてエルザレムにおける使徒たち、サマリア人が神の御言葉
 15 を受け入れたるを聞き、ペトロとヨハネとを遣わしければ、15 兩人かしこに至りて彼らの聖霊を受
 16 けたために祈れり。16 そは彼ら、主イエズスのみ名によりて洗せられしのみにて、聖霊はいまだ
 17 その一人にもくだり給いしことなければなり。17 かくて兩人、信者の上に接手あんじゆ*しければ、²みな聖
 霊をこうむりつつありき。

18 シモン沽聖こせいを願う 18 使徒たちの接手あんじゆ*によりて聖霊の授けらるるを見るや、シモン彼らに金を
 19 差し出だし、19 いかなる人に接手するも、その人聖霊をこうむるよう、われにもこの能力を与え
 20 よ、と言いしかば、ペトロこれに向かいて言いは、20 汝の金は汝とともに滅びよ、そは汝、
 21 神の賜ものを金にて得らるるものと思いたればなり。21 汝はこのこと3に配分はいぶんなくあずかるところ
 22 なし、その心、神のみ前に正しからざればなり。22 されば、この不義より改心4して神に祈れ、汝
 23 が心のこの思い、あるいは許さるることあらん。23 わが見るところによれば、汝は苦にがき胆汁たんじゆう⁵と不

24 義の繩目なちめとのうちにあればなり、と。24 シモン答えて言いけるは、汝らこそ、わがために主に祈りて、その語れるところを一つもわれに来ることなからしめよ、と。

25 ペトロとヨハネの布教 25 かくてペトロとヨハネとは主の御言葉を証し、かつ語りてのちエルザレムに帰りしが、道すがらサマリア人の多くの村に福音を述べたり。

第三 エチオピアの閹者の感化

26 フィリッポ、閹者に遣わさる 26 さて主の使7、フィリッポに語りて、汝、立ちて南に向かい、エルザレムよりガザにくだる道に至れ、そは寂しき道なり、と言いしかば、27 彼立ちて行きしに、おりしも一人のエチオピア人すなわちエチオピア女王カンダケにようおうの大臣だいじんなる閹者にして、ことごとくその宝をつかさどれる者、礼拝のためにエルザレムに來りしが、28 おのが車に坐して予言者イザヤ「の書」を読みながら帰りつつありき。

29 閹者との談話 29 その時「聖」靈フィリッポに向かい、近づきてかの車につけ、とのたまひしかば、30 フィリッポ走り寄りて、彼が予言者イザヤ「の書」を読めるを聞き、汝、その読むところを悟れりと思うか、と言いしに、彼、31 われを導く者なくば、いかでか悟ることを得ん、と言いて、乗りてともに坐せんことをフィリッポにこえり。32 さて、その読みつつありし聖書の文ぶんは次のごとし、「彼、羊のごとく屠所とじよに引かれ、口を開かざること小羊のその毛を刈る者の前に声なきがごとく、33 卑しめられて裁判を奪われたり、たれかその時代の人の処分を述べることを得ん、すなわち生ける者の地上より取り除かれたればなり」。34 閹者フィリッポに向かいて、こう、予

35 言者のかく言えるは、たれがことぞ、おのがことか、はた他人のことか、と言いければ、35 フィ
 リッポ口を開きて、聖書のこの文ぶを初めとしてイエズスの福音を述べたり。

36 闍者洗せらる 36 なお道を行きけるに、水ある所に至りしかば、闍者、見よ水あり、わが洗せ
 37 らるるに何のさわりかある、と言いしを、37 フィリッポ、汝、いっしんに信せばよかるべし、と
 38 言いければ、彼答えて、われ、イエズス・キリストの神の御子たることを信ず、と言い、38 命じ
 39 て車を留めしめ、二人ながら水にくだりて、フィリッポ、闍者を洗せり。39 彼ら水より上がりし
 に、主の霊、フィリッポを取り去り給いしかば、闍者は再びこれを見ざりしかども、喜びつつお
 40 のが道を行きいたりき。40 さてフィリッポはアゾトに現われ、至る所の町村まちむらに福音を述べ伝えつ
 つカイザリアに至れり。

①名はセバステ。②堅信の秘跡のこと。③ラテン訳では言葉。④ラテン訳では悔悛。⑤大罪の意。⑥ラテン訳で
 は地方。⑦天使の意。⑧ラテン訳では、われに示せる。⑨イザヤ53・7、8

第二款 サウロ、異邦人にキリストを知らしむるために選まる

第一 サウロの不思議なる改心

1 **第九章** サウロの意気込み 1 サウロは主の弟子たちに対して、なお脅喝きょうかく、殺害の毒気どくきをはき
 2 つつ1司祭長*に至り、2 ダマスコの諸会堂しよかんに寄する書簡をこえり。これ、この道の男女を見出ださ
 ば縛りてエルザレムに引き行かんためなりき。

3 途中にて倒さる 3 かくて行く道すがらダマスコ付近に至りけるに、たちまち天より光来りて
 4 彼を囲み照らししかば、4 彼、地に倒れつつ、サウロよ、サウロよ、何ぞわれを迫害する、と言
 5 う声あるを聞きて、5 主よ、汝はたれぞ、と言いけるに、かの者、われは汝の迫害せるイエズス
 6 なり、とげあるむち¹に逆らうは汝にとりてかたし、と言えり。6 サウロおののき、かつ驚き入り
 て、主よ、われに何をなさしめんとおぼしめしたるぞ、と言いしに、主のたまいけるは、起きて
 7 市中に入れ、汝のなすべきことは、かしこにて告げらるべし、と。7 この時、伴える人々は声を
 8 ば聞きながら、たれをも見ざれば、あきれはててたたずみたりしが、8 サウロ地より起きて目を
 9 開けども、何も見えざりしかば、人その手を引きてダマスコに導きしに、9 三日の間ここにあり
 て、目見えず飲食せざりき。

10 アナニア、^{まほろし}幻を見る 10 しかるにダマスコにアナニアと言える弟子ありしが、主、幻に、アナ
 11 ニアよ、とのたまいしかば、彼、主よ、われここにあり、と言いしを、11 主またこれにのたま
 けるは、立ちて直^{すく}と言える町に行き、ユダの家にサウロと名づくるタルソ人を尋ねよ、見よ、彼
 12 祈りおるなり、と。12 この時サウロは、アナニアと名づくる人の入り来りて、視力^{しりやく}を回復せんた
 13 めに、おのれに^{あんしゆ*}按手するを見たりしなり。13 されどアナニア答えるは、主よ、この人がエルザ
 14 レムにおいて主の聖徒たちになしし害のいかばかりなるかは、われ多くの人に聞きしが、14 こ
 15 15 主、アナニアにのたまいけるは、行け、けだし彼は異邦人、国王、およびイスラエルの子ら³の
 16 前に、わが名を持ち行くために、わが選^{うっわ}みし器なり、16 ゆえに、わが名のためには、いかばかり

17 苦しむべきかを、われこれに示さんとす、と。17 ここにおいてアナニア行きて家に入り、サウロにあんしゅ*按手して、兄弟サウロよ、汝の来れる道にて汝に現われ給いし主イエズス、汝が視力を回復し、かつ聖霊に満たされんために、われを遣わし給えり、と言いしかば、18 たちまちサウロの目よりうろこのごときもの落ちて視力を回復し、立ちて洗せられしが、19 やがて食事して力づけり。

20 サウロの布教 さて数日の間、ダマスコの弟子たちとともにおりて、20 ただちに諸会堂においてイエズスのこと、すなわちその神の御子たることを述べ伝えければ、21 聞く人みな、あきればてて、こはかつて、かの名を呼び頼める人々をエルザレムにおいて迫害しいたりし者にて、また彼がここに来りしは、彼らを捕縛して司祭長に引き渡さんためならずや、と言いいたれど、22 サウロはいよいよ力まさりて、このイエズスはキリストなり、と断言し、ダマスコに住めるユデア人を閉口せしめつつありき。

24-23 ユデア人の計りごと 23 日ごろ経て、ユデア人一同、サウロを殺さんと協議せしが、24 その計りごと、サウロに知られたり。かくて彼ら、サウロを殺さんとして昼夜「町の」門を守りけるに、25 弟子たち夜中にこれを引き取りてかごに入れ、城壁よりつりおろしてのがれしめたり。

26 エルザレムにおけるサウロ 26 サウロ、エルザレムに至り、つとめて弟子たちのうちに連ならんとすれども、みな彼が弟子たることを信せずして、これを恐れければ、27 バルナバ携えて使徒たちに連れ行き、彼が途中にて主を見奉り、主これにもの言い給いし次第、またダマスコにおいてイエズスのみ名のために、はばかるところなく尽力せし次第を語れり。28 これよりサウロ、エルザレムにありて彼らとともに出で入りし、はばかるところなく主のみ名のために尽力したりけ

29 するが、29 またギリシア語のユデア人と語り、かつ弁論しければ、⁴彼らこれを殺さんと計りしを、
30 兄弟たち悟りてカイザリアに送り、タルソに行かしたるなり。

第三款 百夫長コルネリオの改宗、および異邦人中の教会開始

第一 ルツダおよびヨッペにおけるペトロの奇跡

31 聖会の景況^{けいききょう} 31 かくてユデア、ガリレア、サマリアにては教会一般に平和を得て次第に成り立
32 ち、神に対する畏敬^{いけい}に進み、⁵聖霊の慰めによりて増加し⁶つつありしが、32 ペトロ、諸方を巡回^{じゆんかい}し
33 てルツダに住める聖徒^{せいと}たちのもとに至りしに、33 ここにてエネアと言える人の八年以来中風を病
34 みて床^{とこ}にふせるに会い、34 これに向かいて、エネアよ、主イエズス・キリスト、汝をいやし給う、
35 起きて自ら床を整えよ、⁷と言いければ、彼ただちに起きたり。35 かくてルツダおよびサロンに住
める人、みなこれを見て主に帰依^{きえ}せり。

36 タビタよみがえらさる 36 さてヨッペに一人の女の弟子あり、名はタビタ、訳してドルカ〔す
37 なわち鹿^{しか}〕と言われ、従来、善行^{ぜんこう}と慈善^{じぜん}とに富みたりしが、37 この時にあたりて病死せしかば、
38 屍^{しかばね}を洗いて高間に置きたり。38 かくてルツダはヨッペに近きにより、弟子たちペトロのここにお
39 るを聞き、二人の人を遣わして、ゆうよなくわれらのもとに来れ、と、こわしめしかば、39 ペト
ロ立ちて彼らとともに来りしが、その着^{ちやく}するや、人々これを高間に導き、寡婦^{やもめ}ども、みなこれを
40 囲みて、うち泣きつつ、ドルカがおのれらのために作りいたりしじゆばんと上着とを示せり。40

ペトロ、人をことごとく外に出だし、ひざまずきて祈り、さて屍しかばねに向かいて、タビタ起きよ、と言ひしかば、女、目を開き、ペトロを見てすわれり。41 ペトロ手をかして、これを立たしめ、聖徒せいとたちおよび寡婦やもめたちを呼びて、生き返りたるを返し与えたり。42 このことヨッペに知れわたりければ、主を信仰する人々多く、43 ペトロはシモンと言へる皮なめしの家にありて、久しくヨッペに留まるに至れり。

① 本書 8・3 ② キリストを信ずる人の意。③ イスラエル人の意。④ ラテン訳では異邦人と語りギリシア人と弁論しければ。⑤ 敬虔に進みの意。⑥ ラテン訳では慰めに満たされ。

第二 百夫長、コルネリオの改宗

第十章

1 コルネリオ、出現に会う 1 カイザリアにコルネリオと呼ばるる人あり、イタリア隊たいと称する軍隊の百夫長にして、2 信心深く、家族一同とともに神を畏敬いけいし、人民に多くの施しを行ない、常に神に祈りつつありしが、3 一日午後三時いちじつごろ、幻まぼろしのうちに神の使つかひ、おのがもとに來りて、コルネリオよ、と呼べるを明らかに見しかば、4 目をこれに注ぎ恐れ入りて、主よ、こは何ごとぞや、と言ひしに、天使答へけるは、汝の祈りと施しとは記念として神のみ前にのぼれり、5 今、人をヨッペに遣わしてペトロとも呼ばるるシモンと言ふ人を招け、6 海岸に住めるシモンと言へる皮なめしの家に宿れるなり、彼、汝にそのなすべきことを言わん、と。7 おのれに語れる天使の去りてのちコルネリオは、おのが二人のしもべと部下の信心深き一人の兵卒とを呼び、8 ことごとく事情を語りてヨッペに遣わせり。

9 ペトロ、出現に会う。9 翌日、彼らなお途中にありけるが、町に近づける時、昼の十二時³ごろ、
 10 ペトロ祈らんとて平屋根^{ひらやね}にのぼれり。10 しかるに飢えて、もの欲しかりければ、人の支度するうち
 11 気を奪わるるごとくになり、11 天開けて大いなる布のごとき器^{うつわ}くだり、四隅^{すみ}をつるされて天より
 12 地におろさるるを見たり。12 そのうちには地上のあらゆる四つ足のもの、はうもの、および空の
 14-13 鳥あり。13 また声ありて、ペトロ起きよ、ほふりて食せよ、と言いかば、14 ペトロ、主よ、し
 15 からじ、われかつて汚れたるもの、あるいは清からぬものを食せしことなし、と言いけるに、15
 16 また再び声ありて、神の清め給いしものを、汝、清からずと言うことなかれ、と言えり。16 かく
 17 のごときこと三たびにして、器物^{うつわもの}はたちまち天に取り上げられたり。17 ペトロ心のうちに、その
 見し幻^{まぼろし}を、いかなる意^{こころ}ぞと当惑せるおりしも、コルネリオより遣わされたる人々、シモンの家を
 18 尋ねて門前に立ち留まり、18 訪れて、ペトロとも呼ばるるシモンはここに宿れりや、と問いいた
 19 り。19 ペトロは幻につきて、うち案じいけるを、聖霊これにのたまわく、見よ、三人の男、汝を尋
 20 ぬ、20 立ちてくだり、躊躇^{ちゆうちゆう}することなく彼らとともに行け、彼らは、わが遣わしたる者なれば、
 21 と。21 ペトロ、人々の所にくだりて言いけるは、見よ、汝らの尋ぬるはわれなり、いかなるゆえ
 22 ありて来れるぞ、と。22 彼ら言いけるは、百夫長コルネリオは神を畏敬^{おそい}してユデア人一般に好評
 ある義人^{ぎじん}なるが、聖なる天使より、汝をその家に招きて汝の言葉を聞けとの告^つげを受けたり、と。
 23 ここにおいてペトロ、彼らを招じて宿らしめ、翌日、もろともに出立しけるが、ヨッペより数
 24 人の兄弟これに伴えり。24 次の日、カイザリアに入りしに、コルネリオはすでに親族および親し
 き朋友^{ほうゆう}を呼び集めて、彼らを待ち受けたり。

25 ペトロとコルネリオの対面 25 ペトロの入り来るや、コルネリオ出で迎えて、その足もとに伏し礼拝せしかば、26 ペトロこれを起こして言いけるは、立て、われも人なり、と。27 かくて相語りつつ内に入り、多くの人の集まれるを見て、28 この人々に言いけるは、ユデア人にして異邦人に連なり、あるいは近づくことの掟にかなわざるは汝らの知るところなり。されど何人をも汚れたるもの清からぬものと言うべからざること神われに示し給えり。29 ゆえに、われ招かれて躊躇することなく来りしが、汝らに問わん、われを招きしゆえんは何ぞ、と。30 コルネリオ言いけるは、四日以前の午後三時⁵、われ家にありて祈れるに、おりしも輝ける衣服をつけたる一人の男子、わが前に立ちて言いけるは、31 コルネリオよ、汝の祈りは聞き入れられ、汝の施しは神のみ前に記念せられたり。32 ゆえに人をヨッペに遣わし、ペトロとも呼ばれるシモンを迎えよ、彼は海岸なる皮なめしシモンの家に宿れり、と。33 これによりて、ただちに人を汝に遣わししが、よくこそ来給いつれ。されば今、われらみな神のみ前にありて、主より汝に命ぜられたることを、ことごとく承らんとす、と。

35-34 ペトロの説教 34 その時ペトロ、口を開きて言いけるは、神は片寄り給わず、35 いずれの国民にもあれ、これを畏敬して義を行なう人はみ心にかなえること、われ誠にこれを認む。36 神は御言葉をイスラエルの子らに送り、イエズス・キリストをもって平安を告げ給いしが、これぞ万民の主にましますなり。37 汝らユデア一般になりしことを知るならん、これすなわちヨハネの述べ伝えし洗礼ののち、ガリレアより始まりしことにして、38 神はナザレトより出でたるイエズスに、聖霊と能力とをもって注油し給いしなり。彼は慈善を行ない、かつすべて悪魔に押さえられたる

39 人をいやしつゝ世を過ごし給えり、これ神、彼とともにましましたればなり。39 われらは、そのユデア人の地およびエルザレムにおいてなし給いしいっさいのこの証人なり。ユデア人はこれを木にはりつけて殺したれども、40 神は三日目にこれを復活せしめ、かつ現われしめ給えり。41 ただし、そは人民一般にはあらで、神より予定せられし証人、すなわち死者のうちより復活し給いたるのち彼とともに飲食したるわれらに現われしめ給いしなり。42 かつわが神より立てられて、生者と死者との審判者たることを人民に教え、かつ証明すべしと、イエズス自らわれらに命じ給いしなり。43 すべてこれを信ずる人の、そのみ名によりて罪の許しを受くることは、予言者の、みな証明したるところなり、と。

44 **その説教の結果** 44 ペトロなお、これらの言葉を語りつつあるに、聖霊、言葉を聞ける人々一同の上にくだり給い、45 ペトロに伴い来れる割礼かつれいある信徒は、聖霊の恩寵の異邦人にも注がれたるにあきればたり。46 そは彼らの異なる言葉を語りて神をあがめ奉るを聞けばなり。47 ここにおいてペトロ答えるは、この人々はすでにわれらのごとく聖霊をこうむりたれば、たれか水を禁じて、その洗せらるるを拒み得んや、と。48 かくて彼らのイエズス・キリストのみ名によりて洗せられんことを命ぜしかば、彼らは、ペトロが数日この家に留まらんことをこえり。

- ① 原文には九時。 ② 天使。 ③ 原文には六時。 ④ ラテン訳では返事。 ⑤ 原文には九時。 ⑥ ラテン訳では汝の前。
⑦ 原文には言葉。

第三 エルザレムの信徒、ペトロの処置を非難し、のちこれを賞賛す

11章

異邦人洗礼問題

1 異邦人も神の御言葉を受け入れしこと、使徒たちおよびユデアに

2 ある兄弟たちに聞こえしかば、2 ペトロがエルザレムにのぼるや、割礼ある人々これをなじりて、

3 3 言いけるは、汝、何ぞ無割礼の人のうちに入りてともに食せしや、と。

5-4 ペトロの答弁 4 ペトロ、事の次第を説き出だして言いけるは、5 われヨッペの町にありて祈

りおりしに、気を奪わるるごとくにして幻まぼろしに会いしが、大いなる布のごとき器物うつものの四隅すみをつるさ

6 れつつ天よりくだりて、わがもとに来るを見、6 つらつらその中を眺むるに、地上の四つ足のも

7 の、野獸、はうもの、および空の鳥あるを見たり。7 また、ペトロ起きよ、ほふりて食せよ、と、

8 われに言える声をも聞きたれば、8 われ、主よ、しからじ、汚れたるもの清からぬものは、かつ

9 てわが口に入りしことなし、と言いに、9 再び天より声ありて、神の清め給いしものを汝清か

10 らずと言うことなかれ、と答え、10 三たびまでかくのごとくなりしが、ついにそのもの、みな再

11 び天に引き上げられたり。11 おりしもカイザリアより、わがもとに遣わされたる者三人、わがお

12 る家に立ち留まりしかば、12 躊躇ちゆうちゆうすることなく彼らとともに行け、と「聖」靈われにのたまえり。

13 かくてこの六人の兄弟もわれに伴い来り、一行いっこうかの人ひとの家に入りたるに、13 彼、天使のおのが家

に立ちて、おのれに次のごとくもの言うを見し次第を語れり。すなわち、人をヨッペに遣わし

14 て、ペトロとも呼ばるるシモンを招け、14 彼は汝および汝が一家の救たすかるべき御言葉を汝に語ら

15 ん、と。15 しかるに、わが語り出するや、最初われらの上にくだり給いしごとく、聖靈彼らの上

16 にくだり給いたれば、16 われ主がかつて、ヨハネは水にて洗したるに汝らは聖靈にて洗せられん、¹

17 とのたまひし御言葉を思い出だせり。17 すなわち神、すでにイエズス・キリストを信仰せるわれら

と同様な恩寵を彼らにも賜いしを、われそもそもたれなれば神に禁ずることを得べかりしぞと。
 18 答弁の結果 18 人々これらのことを聞きて默然たりしが、また神に光榮を歸し奉りて言いける
 は、されば神は、生命を得させんために異邦人にも改心²を賜いしなり、と。

第四 アンチオキアの教会開始

19 当時の景況 19 そもそもステファノの時起こりし迫害のために離散したりし人々は、フェニケ
 ア〔州〕^{しゆう}、クプロ〔島〕^{じま}、およびアンチオキア〔市〕まで巡り行きしも、ユデア人のほか、たれ
 20 にも御言葉を語らざりしが、20 彼らのうちにクプロおよびクレネの人々ありてアンチオキアに入
 21 りしかば、ギリシア人にも語りて、主イエズスのことを告げ、21 主のみ手彼らとともにありけれ
 22 ば、あまたの人信じて主に帰依^{きえ}せり。22 これらの沙汰^{さた}、エルザレムなる教会の耳に入りしかば、
 23 バルナバを遣わしてアンチオキアまで至らしめしに、23 彼至りて神の恩寵を見て喜び、決心して
 24 主に留まらんことを一同に勧めいたり。24 けだし彼は善人にして、聖霊と信仰とに満てる人なり
 ければ、おびただしき群衆、主につけり。
 25 バルナバ、サウロを連れ行く 25 さてバルナバ、サウロを尋ねんとてタルソに至り、これに會
 26 いてアンチオキアに伴い行き、26 兩人かしの教会に満一年を過ごして、おびただしき群衆を教
 27 えたり。かくて弟子たちはアンチオキアにおいて初めてキリシタンと呼ばるるに至れり。
 28-27 飢饉^{ききん}における餼金^{きぎん} 27 その時ある予言者たち、エルザレムよりアンチオキアに至りしが、28 彼
 らのうちより一人アガボと言える者立ちて、大飢饉の全世界に起こるべきことを聖霊によりて告

29 げいたりけるに、はたしてクロウジオ〔皇帝〕の時代に起こりしかば、29 弟子たち、おのおの力
 30 に応じてユデアに住める兄弟に補助を送らんことを定め、30 ついにこれを遂げて、バルナバとサ
 ウロとの手に託して長老たちに送れり。

① 本書1・5 ② ラテン訳では悔悛。

第三項 ヘロデ・アギリッパ第一世、教会を迫害す

1 **第十一章** 大ヤコボの殉教 1 当時ヘロデ王は、教会のある人々を悩まさんとして手をくだし、

2 刃をもってヨハネの兄弟ヤコボを殺ししが、3 そがユデア人の心になえるを見て、またペト
 3-2 ロをも捕えたり。

4 ペトロ捕えらる 時は種なしパンの祭日なりしかば、4 これを捕えて監獄に入れ、過ぎ越しの
 5 祭のち人民の前に出ださん心がまえにて、四人組の兵卒四組にこれを守らせたり。5 かくてペ
 トロは監獄に守られつつあるに、教会はしきりに彼がために神に祈りをなしいたり。

6 天使に救い出ださる 6 さてヘロデが彼を出ださんとするその前の夜、ペトロ二つの鎖につな
 7 がれて二人の兵卒の間に眠り、看守ら門前にありて監獄を守りいたるに、7 おりしも主の使、か
 たわらに現われ、光明室内に輝きたり。天使、ペトロの脇をたたきてこれを覚まし、急ぎ起き
 8 よ、と言ひければ、鎖その手より落ちたり。8 天使また、汝、帯をしめてはきものをはけ、と言
 9 いしに、ペトロしかなししかば、また、上着を身にまといてわれに従え、と言えり。9 ペトロ出で

てこれに従いいたりしが、天使よりせらるることの誠なるを知らず、幻を見る心地しいたり。10
 10 さて第一、第二の番所を過ぎて町に通ずる鉄の門に至りしかば、その門おのずから彼らのために
 開け、ともに出でて、一すじの町を行きしに、天使にわかになれり。

11 ペトロ、マルコの家に至る 11 その時ペトロわれに返りて、主がその使を送りて、われをへ
 デの手およびユデア人民の待ち設けしすべてのことより救い出だし給いたるを、今ぞ誠に悟りた
 12 る、と言いて、12 思案しつつマルコと呼ばるるヨハネの母マリアの家に至れり。多くの人ここに
 14-13 集まりて祈りいけるを、13 ペトロ門の扉をたたきければ、ロデと言える下女聞きに出で、14 ペト
 15 ロの声を聞き知るや、喜びのあまり門を開かずして奥に駆け入り、ペトロ門前に立てり、と告げし
 16 かば、15 人々ロデに向かい、汝は心狂えり、と言いたれど、下女は、それなり、と断言するに、人
 17 々、そはペトロの天使ならん、と言いいたり。16 されどペトロたたきてやまざれば、人々門を開
 17 き彼を見て驚きしが、17 彼、手まねにて人々を静め、主のおのれを監獄より取り出だし給いし次
 第を語り、これらのことをヤコブおよび兄弟たちに告げよ、と言いて出でて他の所に行けり。

18 看守の処分 18 夜明けに及びて、ペトロはいかにせしぞとて、兵卒中の騒ぎひとかたならず、
 19 19 ヘロデはペトロを求めてこれを見出ださざりしかば、看守を尋問して死罪に処し、かくてユデ
 アよりカイザリアにくだりて、そこに留まれり。

20 ヘロデの天罰 20 さてチロおよびシドンの人々、ヘロデの怒りに触れしにより、心を合わせて
 21 彼がもとに至り、王室の侍従ブラストの紹介を得て和睦を求めたり、そは彼らの地方は王の国に
 よりて糊口すればなり。21 期日にあたりてヘロデ王、服を着し、高座につきて彼らに談話をなし

けるを、²² 人民、これ神の声なり、人の声にあらず、と賞賛せるに、²³ ヘロデ、神に光栄を帰せざりければ、たちまち主の使に撃たれ、虫にはまれて死せり。²⁴ かくて主の御言葉榮え広がらつたつありしが、²⁵ バルナバとサウロとは聖役を終え、マルコとも呼ばるるヨハネを携えてエルザレムより帰れり。

① 天使。

第二編 聖パウロの事跡

第一項 パウロ第一回の伝道旅行

第十三章 **パウロとバルナバの授品式** ¹ アンチオキアの教会に数人の予言者および教師ありて、

その中にバルナバと、² 黒人と名づくるシモンと、クレネのルシオと、分国の王ヘロデの乳兄弟なるマナヘンと、サウロとありしが、² 彼ら主に祭をなし、かつ断食しけるに、³ 聖霊のたまいけるは、汝ら、バルナバとサウロとをわがために分かちて、わが彼らに任じたる業に従事せしめよ、

と。³ ここにおいて彼ら断食および祈禱をなし、⁴ 兩人に按手して、⁵ これを行かしめたり。

⁴ クプロにおける布教 ⁴ されば兩人、聖霊より遣わされてセリユキアに行き、⁵ かしこよりクプロ

⁵ 口〔島〕に航海して、⁵ サラミネに至りしかば、ユデア人の諸会堂にて神の御言葉を述べ伝え、

ヨハネは助手として彼らとともにおりき。

6 魔術者エリマのこと 6 彼ら、あまねく島を巡りてパフォス³に至りしに、魔術者にして偽^ぎ予言者なる一人のユデア人に会えり。名をバリエズと書いて、セルジオ・パウロと言へる地方^{せうとく}総督^{そうとく}ともにおりしが、7 この総督、知慮^{ちりよ}ある人にて、バルナバとサウロとを招きて神の御言葉を聞かんと欲すれども、8 かの魔術者エリマ、その名はかく訳せらる、兩人に抵抗して総督を信仰より遠ざからしめんと努めいたり。9 その時パウロとも言へるサウロ、聖靈に満たされてこれに目を注ぎ、10 ああ、あらゆる狡猾^{こうかつ}と偽計^{ぎけい}とに満てる者よ、悪魔の子よ、いっさいの義の敵よ、汝、主の直^{すく}なる道をまげてやまず、11 今、見よ、主のみ手汝の上^{うへ}にあり、汝、めい^{めい}しいとなりて、時至るまで日を見ざるべし、と言いけるに、たちまちかすみと暗闇とその目をおおい、彼、さぐりまわりつつ手引きする者を求めいたりしかば、12 総督はそのなりしことを見て、主の教えを感嘆し信仰せり。

13 パウロ、アンチオキアに至る 13 パウロおよびその伴える人々、パフォより出帆してパンフィリア^{しゅう}〔州〕の〔都〕ペルゲンに至りしが、ヨハネ⁴は彼らを去りてエルザレムに帰れり。14 さて彼らはペルゲンを経てピシジア〔州〕の〔都〕アンチオキアに至り、安息日に会堂に入りて坐せしかば、15 律法および予言者〔の書〕を奉読^{ほうどく}したるのち、会堂の司^{つかさ}たち人を彼らに遣わして言わせけるは、兄弟たる人々よ、汝ら人民のために勧めとなるべき話あらば語れ、と。

16 キリストのことを宣言す 16 その時パウロ立ちて、(沈黙せしめんために)手まねして、さて17 言いけるは、イスラエルの男子および神を畏敬^{いけい}せる人々よ、聞け、17 イスラエル人民^{じんみん}の神は、われらの先祖を選び、そのエジプト地方^{きりゆう}に寄留^{きりゆう}せし時、人民を引き立て、かつ御腕^{ごうでん}をあげて、かし

19-18 此より導き出だし、18 四十年の間、^{あれの}荒野において彼らのふるまいを忍び、19 かつカナアンの地において七つの民族を滅ぼし、その土地を彼らに継がしめ給いしが、20 これ四百四十年を経たるのちのことなり。そののち予言者サムエルに至るまで判事を賜い、21 彼らついに王を求めしかば、22 神は四十年の間ベンヤミン族の人、シスの子たるサウルを賜い、22 これを退けてのちダヴィドをあげて王となし給いしが、これを証明してのたまえらく、「われわが心になえる人、エッセの子なるダヴィドを得たり、彼ことごとくわが意をなすべし」と。23 神は約束に従いて、彼が子孫のうちより救い主イエズスをイスラエルに出だし給いしが、24 その来るに先立ちて、ヨハネは改心⁶の洗礼をイスラエルの人民にあまねく述べ伝えたり。25 されどヨハネ、おのが使命を終うるにあたりて、われは汝らのそれと思える人にあらず、さりながら見よ、わがあとに来る人あり、われは、そのはきものを解くにも足らず、と言いいたりき。

26 **主の復活を告ぐ** 26 兄弟たる人々よ、アブラハムの末の子たちよ、また汝らのうち神を畏敬^{いけい}する者よ、汝らにこそ、この救霊^{たすかり}の言葉は送られたるなれ。27 そはエルザレムに住める人およびその頭^{かしら}たちはキリストを見知らず、安息日ごとに奉読^{ほうどく}する予言者たちの言葉をも知らず、彼を罪^{つみ}して予言を全うせり。28 かつ死罪の理由を一つも見出ださずして、ピラトにこれを殺さんことを求め、29 かくてこれに関して書きしるされたりしことを、ことごとく全うしたるのち、木よりおろしてこれを墓に収めたり。30 されど神は三日目にこれを死者のうちより復活せしめ給いしかば、31 多くの日の間、彼とともにガリレアよりエルザレムにのぼりし人々に現われ給い、彼ら今に至るまで人民に対して、その証人たり。32 われらもかつてわが先祖になされし、かの約束の福音を

33 汝らに告ぐ、³³そは神、イエズスを復活せしめて、われらの子らのために、この約束を全うし給いたればなり、詩の第二編に書きしるして、「汝はわが子なり、われ今日汝を生めり」とあるがごとし。³⁴またこれを死者のうちより復活せしめ給いて再び腐敗に帰すべからざることを、さし示してのたまえらく、「われ、ダヴィドになしし聖なる約束を確かに全うせん」と。³⁵さればまた他の所に、「汝の聖なる者に腐敗を見せ給うことなかるべし」と言えることあり、³⁶すなわちダヴィドは、生涯神のおぼしめしに応じて仕え、眠りてのちは先祖とともに置かれて腐敗を見たれども、³⁷神が死者のうちより復活せしめ給いし者は腐敗を見ざりしなり。

38 信仰の必要 ³⁸されば汝ら、これを悟れ、兄弟たる人々よ、イエズスによりてこそ汝ら罪の許しを告げられ、³⁹またモイゼの律法のもとに義とせらるるを得ざりしといっさいの罪につきても、これを信ずる人はみな義とせらるるなれ。⁴⁰このゆえに汝ら慎しめや、予言者たちの「書に」言われしこと、おそらくは汝らに到来せん。⁴¹すなわち「見よ、あなどれる人々感嘆し、しかして滅びよ、けだし汝らの日に至りて、われ一の業をなさん、これ、人、汝らに語るとも、汝らが信ぜざるべきほどの業なり」とあり、と。

42 説教の結果 ⁴²パウロ、バルナバの兩人、会堂を出ずる時、次の安息日にも、この言葉を語らんことをこわれしが、⁴³散会ののち、多くのユデア人およびユデア教に帰依せし人々、兩人に従い来りしかば、兩人彼らに語りて、神の恩寵に留まらんことを勧めいたり。⁴⁴次の安息日には、神の御言葉を聴聞せんとて、ほとんど町をこぞりて集まりしが、⁴⁵ユデア人、群衆のおびただしきを見て、妬ましさに満たされ、ののしりてパウロの言うところを拒みければ、⁴⁶パウロ、バル

ナバ毅然^{きぜん}として言いけるは、神の御言葉はまず汝らに語るべかりき。しかるに汝らこれを退けて、自ら永遠の生命を得るに足らずとせるをもって、見よ、われら^{てん}転じて異邦人に向かわんとするなり。47 けだし主われらに命じて、「われ汝を立てて異邦人の灯^{とも}とし、地の果^{はて}まで救いとならしめん¹¹」とのたまえり、と。48 異邦人これを聞きて喜び、また主の御言葉をあがめいたりしが、永遠の生命に予定せられし人々、ことごとくこれを信仰せり。49 かくて主の御言葉、全地方に広まりければ、50 ユデア人は敬虔^{けいけん}なる貴婦人^{きふじん}たち、および町の重だちたる人々を煽動して、パウロとバルナバとに対して迫害を起こさせ、おのが地方より彼らを追い出だせり。51 兩人は人々に向かい、て足のちりを払い、イコニオムに至りしが、52 弟子たちは喜びと聖霊とに満たされてありき。

① 地中海の港。② マルコとも言う。本書12・12 ③ クプロ島の都。④ 本書13・5 ⑤ 全能を表わしての意。⑥ ラテ
ン訳では悔い改め。⑦ 詩編2・7 ⑧ イザヤ55・3 ⑨ 詩編15・10、本書2・27 ⑩ ハバクク1・5 ⑪ イザヤ49・6

第十四章

イコニオムの布教

1 イコニオムにおいて兩人相ともにユデア人の会堂に入りて語りければ、ユデア人およびギリシア人のこれを信する者おびただしかりしが、2 信ぜざるユデア人は異邦人の心を煽動し、弟子たちに対して怒りを起こさせたり。3 されど兩人は久しく滞在して、はばかりとなく主のために尽力し、主は彼らの手によりて印と奇跡とを行なわしめて恩寵の教えを保証し給えり。4 しかるに町の住民二つに分かれて、あるいはユデア人の味方となり、あるいは使徒たちの味方となりしが、5 異邦人とユデア人と、その頭^{かしら}たちとともに騒ぎ立ちて兩人をはずかしめ、また石を投げ打たんとせしかば、6 兩人悟りてリカオニア〔州〕の町なるリストラ、デルベンおよびそのあたりの地方に避け、かしこにて福音を述べ伝えたり。

21 とアンチオキアにもどり、21 弟子たちの魂を固め、信仰に留まらんことを勧め、われらは多くの患難を経て神の国に入らざるべからず、と教えつつありき。22 また彼らのために教会ごとに長老を立て、断食と祈禱とをなして彼らをその信仰せる主にゆだねたり。23 かくてピシジア〔州〕を経てパンフィリア〔州〕に至りしが、24 〔都〕ペルゲンにおいて主の御言葉を語りてアツタリア〔港〕^{みなと}にくんだり、25 そこより出帆して、このたびしとげたる事業をなすべく、神の恩寵にゆだねられたりし所なるアンチオキアに帰れり。26 さて、そこに至りて教会の人々を集め、すべて神のおのれらとともになし給いしこと、また異邦人に信仰の門を開き給いしことを報告し、27 久しく弟子たちとともに留まれり。

① 神々の頭。^{かしら}② 能弁の神。^{のうべん}

第二項 エルザレムの教議會^{きようぎかい}

第十五章

律法上の問題

1 かくてある人々、ユデアよりくだりて兄弟たちに向かい、汝らモイ

2 ^{*}ゼの慣例に従いて割礼^{かつれい}を受くるにあらずば救霊^{たすかり}を得ず、と教えければ、2 パウロとバルナバと、

彼らに対してひとかたならぬ争論をなししが、信徒はパウロ、バルナバ、および反対がわの数人をエルザレムにのぼせ、この問題につき、使徒たちおよび長老たちにかがわんことに定めたり。

3 3 されば彼ら教会に見送られて、フェニケアおよびサマリアを経、異邦人感化の事情をつぶさに語りて、兄弟一同に大いなる喜びを起こさせたり。

4 パウロ、エルザレムに至る 4 一行エルザレムに至りて、教会と使徒たちと長老たちとに迎え
 5 られ、神のおのれらとともになし給いしことの次第を告げしが、5 ファリサイ派のうちなる数人
 の信者立ちて、異邦人は割礼を受けざるべからず、また命じてモイゼの律法を守らしむべし、と
 6 言いければ、6 使徒たちおよび長老たち、このことを調べんとて集まれり。

7 使徒たちの協議 7 激しき争論のちペトロ立ちて彼らに言いけるは、兄弟たる人々よ、久し
 き以前に神われらのうちより選みて、わが口をもって異邦人に福音の言葉を聞かせ、これを信ぜ
 8 しめ給いしことは汝らの知るところなり。8 かつ人の心を知り給う神は、汝らに賜いしごとく、
 9 彼らにも聖霊を賜いて証明し給い、9 信仰によりて彼らの心を清め、われらと彼らとをいささか
 10 も隔て給いしことなし。10 しかるを何すれぞ汝ら神を試みて、われらの先祖も、われらも負うあ
 11 たわざりしくびきを、今、弟子たちの首に負わせんとはする。11 われらの救わるるは主イエズス
 ・キリストの恩寵によれりとは、われらの信ずるところにして、彼らもまたしかるなり、と。

12 ヤコボの動議 12 会衆みな沈黙して、パウロとバルナバとが、異邦人のうちにおのれらをもつ
 13 て神の行ない給いしすべての印と奇跡とを語るを聞きたりしが、13 彼らが沈黙を保ちたるのち、
 14 ヤコボ答えて言いけるは、兄弟たる人々よ、われに聞け、14 シモンすでに神初めて異邦人を顧み、
 15 そのうちよりおのが名を尊ぶ民を取り給いし次第を述べしが、15 予言者たちの言葉これにかなえ
 16 り、書きしるして、16 「こののちわれ帰りて、倒れたるダヴィドの幕屋を再興し、そのくずれた
 17 るところを繕い、かつこれを建てん、17 こは他の人々および、ためにわが名を呼ばれたる万国の
 異邦人が主を求め得んためなり、これをなし給うところの主、これをのたもう」とあるがごとし。

19-18 18 主は世の初めより、おのが業ぎやうを知り給う、19 これによりて、われ思うに、異邦人より神に帰依きえする人々をわずらわすべからず、20 ただ書を送りて、偶像くわうぞうに献げられし物と、私通しつうと、絞め殺しされし獣の肉と、血とを戒むべし、21 けだしモイゼの書は、安息日ごとに会堂において読まれ、これを述ぶる人、昔よりいずれの町にもあればなり、と。

22 決議 22 ここにおいて使徒たち、長老たち、および教会一同に、そのうちより人を選びて、パウロ、バルナバとともにアンチオキアに遣わすをよしとせり、その人々はバルサバとも呼ばるるユダ、およびシラにして、兄弟中の重だちたる者なりき。

23 回章文かいしやうぶん 23 彼らの手に託せられし書簡の文にいわく、「使徒たちおよび兄弟たる長老ら、アンチオキアとシリアとシリシアとにある異邦人たりし兄弟たちに挨拶あいさつす。24 われらの聞くところによれば、ある人々、われらが命じたることもなきに、われらのうちより出で行きて、汝らの魂をくつがえし、言葉をもって汝らを乱したる由よしなれば、25 われら一致して人を選び、26 わが主イエズス・キリストのみ名のために生命いのちを惜しまざりし人、われらが最愛なるバルナバおよびパウロとともに、汝らに遣わさんことをよしとせり。27 さればユダとシラとを遣わしたるが、彼ら口ずから、これらのことを汝らに告げん。28 けだし聖霊とわれらとは、左ひだりの必要なることのほか、汝らに何らの荷をも負わしめざるをよしとせり。29 すなわち汝らが偶像に献げられし物と、血と、絞め殺されしものと、私通とを断つべきこと、これなり。これらのことを慎しまば、それにてよろしかるべし、汝ら健やかなれ」と。

30 決議、布告ふこくさる 30 さて彼ら、いとまごいしてアンチオキアにくんだり、信徒を集めて書簡を渡

32-31 ししが、31人々これを読みて慰めを得て喜べり。32ユダとシラとは、その身も予言者なれば、多くの談話をもつて兄弟を勧め、かつ固めたりしが、33しばらくここに留まりてのち、おのれを遣わしし者のもとに帰らんとて、兄弟たちに無事を祝されていとまをこい得たり。34されどシラはここに留まるをよしとせしかば、ユダ一人エルザレムに帰り、35パウロとバルナバとはアンチオキアに留まり、他の数人とともに主の御言葉を教え福音を述べつつありき。

第三項 パウロ第二回の伝道旅行

36. パウロ、バルナバ分かる 36さて数日ののちパウロはバルナバに向かい、いざ、われらあともどりして、先に主の御言葉を述べ伝えし、すべての町を巡回し、その安否を問わん、と言いしが、37バルナバはマルコとも呼ばるるヨハネを携えんと思えるに、38パウロは、彼はかつてパンフィリアにておのれらを離れ、ともに働かざりし者なれば、これを受け入るべからず、と考⁴えいたりしかば、39ついに衝突して相別るるに至れり。さればバルナバはマルコを携えてクプロ〔島〕へ出帆せしが、40パウロはシラを選みて、兄弟たちより神の恩寵にゆだねられて出立し、41シリアとシリシアとを巡りて諸教会を固め、使徒たちおよび長老たちの規定を守るべきことを教えいたり。

① 原文には言葉。

② アモス9・11、12

③ 本書13・13

④ ラテン訳では、こい。

1 **第十六章** パウロ、チモテオを携う 1パウロ、デルベンとリストラとに至りしに、おりしもここにチモテオと言¹える弟子あり、信者となりたるユデア教の婦人の子にて、父はギリシア人なり

- 3-2 しが、2 リストラおよびイコニオムにある兄弟たちは、これに好評を与えつつありき。3 パウロ
 これを伴いで出発せんと思い定め、彼を携えてその地方なるユデア人に対して割礼をほどこせり。
 4 そは彼ら、みなその父のギリシア人たりしことを知ればなり。4 かくて町々を通る時、エルザレ
 5 ムにおける使徒たちおよび長老たちの規定を守らせんとて、これを人々に渡しければ、5 諸教会は
 その信仰を固うせられて、人数も日々にいや増しつつありき。
 6 パウロ、告げをこうむる 6 兩人、フリジアおよびガラチア地方をよぎりしに、聖霊〔小〕ア
 7 ジアにおいて神の御言葉を語ることを戒め給いしが、7 またミジア〔州〕に至りて、ピチニア〔州〕
 8 へ行かんと試みしも、イエズスの霊、これを許し給わざりき。8 かくてミジアを経てトロアデに
 9 くだりけるに、9 パウロ夜中、幻を示され、一人のマケドニア人立ちおりて、おのれを頼み、マ
 10 ケドニアに渡りてわれらを救え、と言えるを見たり。10 パウロこの幻を見るや、おのれらがマケ
 ドニア人に福音を伝うるために神より召されたることを確信して、ただちにマケドニアへおもむ
 かと努めたり。
 11 マケドニアに至る 11 さて、われら¹トロアデより出帆してサモトラキアへ直航し、翌日ネエプ
 12 ルに至り、12 そこよりマケドニアの取りつきの都会にして殖民地なるフィリップピに至れり。数日
 13 の間この町に留まり、13 安息日にあたりて町の門外に出で、川のほとりの祈り場とおぼしき所に
 14 行き、集まりたる女たちにすわりつつ語りけるに、14 テアチロ町の紅色染料商にして神を尊べる
 ルジアと言える女、これを聞きけるを、主その心を開きて、パウロより言われることに傾かしめ
 15 給い、15 彼一家とともに洗せられしが、願いて、汝ら、われを主に忠実なる者とせば、わが家に

入りて留まれ、と言いて、しいてわれらを入らしめたり。

16 悪魔につかれたる娘いやさる 16 ここに祈り場ばに行く道すがら、占うらないの鬼神きしんにつかれて、占うらないをもつてその主人らに、そこばくの利益を得させつつある一人の娘われらに出で会いしが、17 その娘、パウロとわれらとのあとに従いつつ呼ばわりて、この人たちは、いと高き神のしもべにして、なすかり 汝らに救霊の道を告ぐる者なり、と言いいたり。18 かくのごとくすること数日にして、パウロいたく心を痛め、振り返りて鬼神きしんに向かい、われ、イエズス・キリストのみ名によりて汝にこの娘より出ずることを命ず、と言いしかば、彼、即時そくじに出でたり。

19 パウロ捕えらる 19 しかるにその主人らは、おのが利益の望みなくなりたるを見て、パウロとシラとを捕え、官吏かんりのもとに市場まで連れ行きて、20 官吏に差し出だし、この人々はエデア人にして、われらの町を乱し、21 ロマ人たるわれらの受くべからず、行なうべからざる慣習かんしゅうを伝うる者なり、と言い、22 人民も馳せ来りて使徒たちに反対せしかば、官吏は命じて、そのじゅばんを裂かせ、これをむち打たせ、23 多くの傷を負わせてのち監獄に送り、固く守るべき由よしを看守に命じたり。

24 不思議に監獄より救い出ださる 24 看守かんしゅは、かかる命令を受けたれば、二人を奥の監房かんぼうに入れ、かせにて足をしめたりしが、25 夜中に至り、パウロとシラと祈りて神を賛美し、監獄におる人々これ聞きいたるに、26 たちまち大地震ありて、監獄は土台まで震動し、戸はただちにことごとく開けて、一同の縄目解けたり。

27 看守の感化 27 看守目覚めて監獄の戸の開けたるを見、囚人しゅうとの逃げしことと思ひ、刀を抜きて

28 自殺せんとしければ、28 パウロ、声高く呼ばわりて言いけるは、自害すな、われらみなここにあり、と。29 看守、灯を求めて内に入り、おののきつつパウロとシラとの足もとに平伏し、30 伴いて外に出で、君たちよ、われ何をなしてか救霊を得べき、と言いかば、31 彼ら言いけるは、主にイエズスを信仰せよ、さらば汝も家族も救霊を得べし、とて、32 看守とその家にある人々一同に主の御言葉を語りしかば、33 看守は夜中ながら、即時に兩人を引き取りて、その傷を洗い、おのれも家族もみな、ただちに洗せられしが、34 なお彼らを自宅に伴いて、これに食卓を備え、家族一同とともに神を信じて喜べり。

35 パウロの放免 35 夜明けに至り、官吏は刑吏を遣わして、かの人々を許せ、と言わせしかば、36 看守このことをパウロに告げて、官吏汝らを許せとて人を遣わしたれば、今は出でて、つつがなく行け、と言いかば、37 パウロ、刑吏に言いけるは、彼らは、われわれを公にむち打たせ、
 38 彼ら来りて、38 自らわれわれを出だすべし、と。刑吏このことを告げしかば、官吏は
 39 そのロマ人たることを聞いて恐れ、39 来り詫びて二人を伴い出で、この町を去らんことをこいた
 40 かり。40 かくてパウロとシラとは監獄より出でてルジアの家に入り、兄弟たちに会いてこれを慰め、
 さて出立したりき。

① 記者も同伴。

1 **第十七章** テサロニケにおける布教 1 それよりアンフィポリとアポロニアとを経てテサロニケ
 2 に至りしが、ここにユデア人の会堂ありければ、2 パウロ、例によりて彼らのうちに入り、三つ

3 の安息日にわたりて聖書につきて弁論し、3 キリストが必ず苦しみて死者のうちより復活すべかりしことと、わが汝らに告ぐるイエズスがキリストたることを説きて論証したるに、4 そのうちのある人々および神を尊べるあまたのギリシア人、その他貴婦人たちも少なからず承服して、5 パウロとシラとにつけり。5 しかるにユデア人ねたみを起こして、無頼漢のうちより数人の悪者を手につけ、人々を召集して市中を騒がし、またヤソンの家を囲みてパウロとシラとを人民の前に引き出ださんと努めたりしが、6 彼らを見つけ得ず、ヤソンと数人の兄弟とを市の吏員のもとに引き行きて、天下をくつがえしたる、かの人々ここにも来れるを、7 ヤソンが受け入れて、一同にイエズス「と言う」王、別にありとなえ、セザルの勅令に逆らうなり、と叫びつつ、8 人民とこれを聞ける町の吏員とを煽動し、9 ヤソンおよびその他の人々より保証金を受けて、これを許せり。

10 ペレアにおける布教 10 さて兄弟たち、ただちにパウロとシラとを夜のうちにペレアへ送りしかば、彼らそこに着きてユデア人の会堂に入りしが、11 この人々はテサロニケにある者どもよりは高尚にして、熱心に言葉を受け、このこと、はたしてしかりやいなやと、日々聖書を調べたり。12 かくてそのうちに信じたる人多く、ギリシアの貴婦人にも男子にも、その数少なからざりき。13 さるほどにテサロニケにあるユデア人、ペレアにもパウロによりて神の御言葉の伝われるを知り、またここに来りて群衆を煽動して騒がししかば、14 兄弟たち即時にパウロを海辺に至らしめ、シラとチモテオとはペレアに留まれり。

15 パウロ、アデンスに至る 15 パウロを案内せる人々はアデンスまで送り行きしが、シラとチモ

16 テオとに、なるべく速かにわがもとに來れとの命をパウロより受けて立ち歸れり。16 パウロ、ア
 17 デンスにありて彼らを待てる間、この都會の偶像崇拜にふけるを見て憤激し、17 會堂にてはユデ
 ア人およびユデア教に歸依せし人々と論じ、市場にても、居合寄せたる人々と日ごとに論じいた
 18 り。18 時にエピクリアン*およびストイック派*の哲學者数人これと論じ合いけるが、ある人は、こ
 のさえずり、手は何を言う者ぞ、と言ひ、ある人は、彼は新しき鬼神きしんを告ぐる者のごとし、と言ひ
 いたり、これパウロがイエズスと復活との福音を彼らに告ぐればなり。

19 アレオパグに伴わる 19 かくてパウロをアレオパグ1に連れ行きて言ひけるは、汝が説けるこの
 20 新しき教はいかなるものぞ、われらこれを知ることを得べきか、20 すなわち汝は何らかの新しき
 21 ことを、われらの耳に入るるがゆえに、われらはその何ごとなるかを知らんと欲するなり、と。
 21 けだしアデンス人も寄留人きりゆうじんもみな、ただ耳新しき何ごとかを、あるいは言ひ、あるいは聞きて
 日を送る者なりき。

22 アレオパグにおける談話 22 その時パウロ、アレオパグの中央に立ちて言ひけるは、アデンス
 23 人よ、われは汝らが万事において宗教心2のはなはだ厚きがごときを認む。23 すなわち通りがけに、
 つらつら汝らの礼拝物れいはいぶつを見て、知れざる神に「献ぐ」としるせるほこらをも見つけたればなり。
 24 さればわれ、汝らが知らずして尊べるそのものをば汝らに告げん。24 世界とその中にあるいっさ
 25 いのものを造り給える神は天地の主にてましますば、手にて作れる宮みやには住み給わず、25 自ら
 万物に生命と呼吸といっさいのこととを賜えば、何らの乏しきところあるもののごとく、人手ひとてに
 26 て仕えらるるものにあらず、26 一人よりして地の全面に住まうまでに人類を造りなし給ひ、季節

27 と住居の境とを定め給えるは、27 これ人をして神を求め、あるいは探し出ださしめんためなり。
 28 しかれども彼は、われらめんめんを離れ給うこと遠からず、28 けだし彼にありてこそ、われらは、
 かつ生き、かつ動き、かつ存在するなれ。汝らが、詩人のたれかれも、われらもまた彼が末なり、
 29 と言えるがごとし。29 かくわれらは神の末なれば、神を金、あるいは銀、あるいは石、すなわち
 30 芸術および人の想像によれる彫刻ちようこくに似たるものと思ふべからず。30 神はかかるもうまい矇昧の時代を見す
 31 ごとし給いて、今、人に向かいて、いずこにてもことごとく改心3すべし、と命じ給う。31 けだし日
 を期し給いて、その日自ら立て給いし一人の人、すなわちこれを死者のうちより復活せしめて、
 万民の前に保証し給いたる一人をもつて、世界を義に従いて裁かんとし給うなり、と。

32 その結果 32 死者の復活と聞きて、ある人々は、あざ笑い、ある人々は、われらこのことにつ
 34-33 きて、また汝に聞かん、と言えり。33 かくてパウロは彼らのうちより立ち去りしが、34 これに従
 いて信仰せる者数人あり、そのうちにアレオパグの裁判官ジオニジオ、ダマリスと言える婦人、
 その他なおありき。

① 大審院の場所。 ② あるいは迷信。 ③ ラテン訳では悔い改め。

1 **第十八章** パウロ、コリントに至る 1 そののちパウロ、アデンスを出でてコリントに至りしが
 2 2 クロウジオ「皇帝」が、ユデア人はみなロマを去るべしとの命をくだししたために、近ごろイタ
 リアより来れるポント生まれのアクイラと言えるユデア人と、その妻プリシルラとに会いしか
 3 ば、彼らに近づき、3 同業なりければ同居どうきよしてともに仕事をなしいたり、そは幕屋製造業なりき。
 4 4 さて安息日ごとに会堂において論じ、主イエズスのみ名をさしはさみて、ユデア人とギリシア人

5 とを勧めおりしが、5 シラとチモテオとマケドニアより来りてのちは、パウロもつばら宣教に従
 6 事し、イエズスのキリストたることをユデア人に証明しけるに、6 彼らこれに逆らい、かつのの
 しりければ、パウロ、衣服を振るいて言いけるは、汝らの血は汝らの頭にこゝろに帰すべし、われは罪な
 7 し、今より異邦人におもむかんとす、と。7 かくてここを去りて、神を尊べるチト・ユストと言え
 8 る人の家に入りしが、その家は会堂の隣にして、8 会堂の司つかさクリスポ、その家族一同とともに主を
 9 信仰し、またコリント人おびただしく教えを聞きて、信じ、かつ洗せられいたり。9 時に主、夜中
 10 にまぼろし幻をもってパウロにのたまひけるは、恐れずして語れ、黙することなかれ、10 けだしわれ、汝
 とともにあれば、汝にうちかかりて害する人あらず、そはわが民となる者、この市中に多ければ
 11 なり、と。11 かくてパウロは一年六カ月の間に滞在して、彼らのうちに神の御言葉を教えたり。
 12 騒動起こる 12 しかるにガルリオがアカヤ〔州〕の総督そうとくたりし時、ユデア人心を合わせてパウ
 13 ロに逆らい、これを裁判所に召し連れ、13 この人、律法に反して神を尊ぶことを人に勧め、と言
 14 いければ、14 パウロ、口を開かんとしけるを、ガルリオ、ユデア人に向かいて、ユデア人よ、不
 15 正のこと、極悪ごくあくのことならば、わが汝らに聞くはもとより道理なれど、15 もし教えと名義めいぎと汝ら
 の律法とに関する問題ならば、汝ら自らこれを見よ、われはかかることの審判者となるを好まず、
 17-16 と言いて、16 彼らを法廷ほうていより追い出だしければ、17 彼らみな会堂の司つかさステネスを捕え、裁判所
 の前にて、打ちたたきたり、されどガルリオ、少しもこれを意とせざりき。
 18 エフェゾ等を経てアンチオキアに帰る 18 パウロなお久しく滞在してのち、兄弟たちに別れを
 告げ、プリシルラおよびアクィラも同船してシリアへ出帆せしが、早くよりの誓願にて、ケンク

19^レにおいて髪をそりたりき。19さてエフェゾに至り、かの二人をおきて、自らは会堂に入り、ユ
 21-20 デア人と論じおりしが、20彼らなお久しく留まらんことをこいたれど、うけがわずして、21別れ
 22 を告げ、神のおぼしめしならば再び汝らに帰るべし、と言いて、エフェゾより出発し、22カイザ
 リアに上陸して「エルザレムに」のぼり、教会に挨拶してアンチオキアにくだれり。

第四項 パウロ第三回の伝道旅行

23 旅行の初め 23パウロ、アンチオキアに滞在することしばらくにして出発せしが、次第にガラ
 24 チア地方およびフリジアを巡りて弟子一同を堅固ならしめたり。24時に名をアポルロと呼ばれ、
 25 能弁^{のうべん}にして聖書に達^{たつ}したるアレキサンドリア生まれのユデア人、エフェゾに來りしが、25この人
 かつて主の道を教えられ、ただヨハネの洗礼を知るのみなりしかど、熱心家にしてイエズスのこ
 26 とを語り、かつ詳しく教えつつありき。26されば、はばかるところなく会堂において尽力し出でし
 27 を、プリシルラとアクィラと聞きてこれをいざない、なお詳しく主の道を説き聞かせたり。27ア
 ポルロ、アカヤ〔州〕に行かんと欲しければ、兄弟たち書簡を弟子たちに送りて、これを受け入
 28 れんことを勧めしに、彼行きてのち、すでに信じたる人々に益するところ多かりき。28そは聖書
 によりてイエズスのキリストたることを証明し、勇^{ゆう}をふるいて公然ユデア人を説きふすればなり。

① コリントの二つの港。

1 **第十九章** エフェゾにおけるパウロ 1しかるにアポルロ、コリントにおりし時、パウロは高地^{こうち}

2 の方^{かた}を巡りてエフェソに来り、ある弟子たちに会いて、2 汝ら信者となりて聖霊をこうむりたる
 3 か、と言いしに、彼ら、われらは聖霊のあることすら聞きしことなし、と言いしかば、3 パウロ言
 いけるは、しからば何によりて洗せられたるぞ、と。彼ら言えらく、ヨハネの洗礼を受けたるな
 4 り、と。4 パウロ言いけるは、ヨハネは、おのれののちに来るべき者すなわちイエズスを信ずべ
 5 し、と言いつつ、改心¹の洗礼をもつて人民を洗したるなり、と。5 彼らこれを聞きて、主イエズ
 6 スのみ名によりて洗せられ、6 パウロこれに按手^{あんじゆ*}せしかば、聖霊彼らの上にくんだり給いて、彼ら
 8-7 異国語を語り、かつ予言したり、7 これらの男子およそ十二人なりき。8 パウロ、会堂に入りて
 9 三カ月の間、はばからず語り、神の国につきて論じ、人々を勧めおりしが、9 あるいはかたくな
 になりて信ぜず、主の道を群衆の前にのしる者ありければ、パウロ彼らを去りて、弟子たちを
 も別れしめ、日々チランノと言える人の教場にて弁論しいたり。

10 パウロの奇跡 10 かくすること二年にわたりしかば、ユデア人も異邦人も「小」アジアに住め
 11 る者は、すべて主の御言葉を聞くに至り、11 神はまた、ただならぬ奇跡をパウロの手によりて行
 12 ない給い、12 その身より手ぬぐい、あるいは帯を取りて病人につくれば、病、彼らを離れ、悪鬼
 立ち去るほどなりき。

13 これにまぬる人 13 しかるに各地を巡るユデアのまじない師のうちなるある人々は、パウロが
 述ぶるイエズスによりて、われ汝に命ず、^{あくき}と言いて、悪鬼につかれたる人の上に試みに主イエズス
 のみ名を呼べり。14 かくなせるはユデア人なるスケヴァ大司祭の七人の男子なりしが、15 悪鬼答
 えて、われイエズスを知り、パウロをも知れり、されど汝らはたれぞ、^{ごくあく}と言いて、16 極悪の魔鬼^{まき}

につかれたるその人、彼らにとびかかり、二人を取り押さえて責めしかば、彼ら裸はだかにせられ傷つけられて、その家を逃げ去れり。17このことエフェゾに住めるユデア人およびギリシア人一般2に知れわたりしかば、恐れは一同の上を襲いて、主イエズスのみ名、あがめられつつありき。

18 改心の証拠 18かくて信仰せる人々多く来り、おのが行ないしことを説き表わしてこれを告白しおり、19またかつて魔術を行ないたりし人々、多くその書籍を持ち来り、衆人の前にて焼きつくししが、その代価をつもりて銀貨五万なることを認めたり。20神の御言葉の広まりて勢力を得つつあること、かくのごとくなりき。

21 パウロのもくろみ 21これらのことをなしとげてのち、パウロ、聖霊に勧められてマケドニアおよびアカヤを経てエルザレムへ行かんと志し、われ、かしこに至りてのちロマをも見ざるべからず、22 従者じゆうしやのうち、チモテオとエラストとの二人をマケドニアに遣わし、その身はしばらく「小」アジアに留まれり。

23 銀細工屋、騒動を起こす 23さて、この時にあたり、主の道につきて、ひとかたならぬ騒動起り。24すなわちデメトリオと言え一人の銀細工屋あり、ディアナ女神めがみの銀の厨子ずしを作りて、細工人さいくじんらに得さする利益少なからざりしが、25その細工人および同業の職工を呼び集めて言いけるは、男たちよ、われらの利益がこの細工によれることは汝らの知るところにして、26かのパウロが手にて作れるものは神にあらず、27 と言いて、すでにエフェゾのみならず、ほとんど全アジアを説き勧めて、おびただしき人を遠ざからしめしこともまた汝らの見聞けんぶんせるところなり。27これより起こる危険は、ただにわれらが職業の信用を失うのみならず、ディアナ大女神おおめがみの宮みやもないがしるに

せられ、アジアおよび世界こぞりてあがめまつる大女神の威厳も失せ行くべきことこれなり、と。
 28 騒乱者の熱中 28 彼ら、これを聞きて怒り胸に満ち、叫びて、大いなるかなエフェゾ人のディア
 29 ナ、と言えり。29 かくて市中をこぞりて大いに騒ぎ立ち、相一致してパウロの友なるマケドニア
 30 人ガイオとアリストタルコとを捕えて劇場に押し入りたり。30 パウロも群衆のうちに入り込まんと
 31 せしを弟子たち許さず、31 また「小」アジアにて国祭をつかさどれる上官中に、パウロの親友な
 32 る人々あり、使にて、劇場に立ち入らざらんことを言いやりしが、32 人々はかれこれと叫びいた
 33 り、そは会衆混雑して、おおかたの人は、おのれらが何ゆえに集まりしかをさえ知らざればなり。33
 かくてユデア人より突きやられたるアレキサンドルを雑踏のうちより引き出だししに、彼、手ま
 34 ねして静まらんことをこい、人民に事の由を述べんとしたれど、34 人々彼がユデア人なるを見知る
 や、みな異口同音にほとんど二時間にわたりて、大いなるかなエフェゾ人のディアナ、と叫べり。
 35 書記官の意見 35 かくて書記官、群衆を静めてのち言いけるは、エフェゾ人よ、エフェゾの町
 36 はゼウスの末なるディアナ大女神の宮に仕えまつる者たること、たれかは知らざらん、36 これ拒む
 37 べからざることなれば、汝らよろしく穩便にして、何ごとも軽卒になすべからず。37 すなわち汝
 らこの人々を召し連れたれども、彼らは宮のものを盗みたるにもあらず、われらの女神をののしり
 38 たるにもあらず。38 もしデメトリオおよびその友なる細工人ら、ある人につきて訴うるところあ
 39 らば、法廷の開かれたるあり、地方総督のあるあり、人々互いに告訴すべし。39 汝らもし他の問
 40 題につきて議することあらば、正当の議会においてこれを決するを得べし。40 けだし今日のこと
 につきては、騒乱のどがを受くる恐れあり、そは、この集会のことを弁解すべき理由、われらに

一つもあらざればなり、と。書記官は、かく言い終わりにて散会を告げたり。

①ラテン訳では悔い改め。②ラテン訳では異邦人。③ラテン訳ではデナリオとあって、およそ三十せんに当たる銀貨。④ラテン訳では汝ら。

1 **第二十章** パウロ、マケドニアに至る 1 騒ぎやみてのち、パウロ弟子たちを呼び集め、奨励を
 2 与えて別れを告げ、マケドニアへ行かんとて出立せり。2 かくて、かの地方を巡り、多くの談話
 3 に人々を勧めてギリシアに至り、3 滞在三カ月にしてシリアへ出帆せんとしたるに、ユデア人ら
 4 落とし穴を設けて待ちければ、マケドニアを経て帰らんと決心せり。4 伴いし人々は、ベレエ生
 5 まれなるピルロの子ソパテル、テサロニケ人アリスタルコおよびセコンド、デルベン人ガヨおよ
 6 びチモテオ、「小」アジア人チキコおよびトロフィモなりき。5 彼らみな先立ちてトロアにてわ
 7 れらを待ちしが、6 われらは種なしパンの祭日ののちフィリップより出帆し、五日間にてトロア
 8 に至り、そこに留まること七日なりき。
 9 **青年、生き返らさる** 7 週の第一日、われらパンを裂かんとて集まりしに、パウロは翌日出立
 10 すべきにて人々と論じおり、夜中まで語りつづけしが、8 われらが集まれる高間に灯多かりき。9
 11 ここにユチコと言える青年、窓の上に坐して熟睡したりしに、パウロの語ることな久しければ、
 12 眠りのために三階より落ち、取り上げたれば、すでに死したりき。10 パウロくだり行きて、その
 13 上に伏し、これをかき抱きて言いは、汝ら憂うることなかれ、彼が魂、身の内にあり、と。
 14 11 かくてまた、のぼりてパンを裂き、かつ食し、なお夜明けまで語りつづけて、そのまま出立せり。
 15 12 さて人々、青年の生きたるを連れ来りしかば、慰めらるること、ひとかたならざりき。

13 パウロ、ミレトに至る 13ここに、われらはアッソスにてパウロを乗せんとて、まず船に乗り
 14 て、かしこへ出帆せり、そは彼、陸行を企てて、かく予定したればなり。14パウロ、アッソスに
 15 て、われらに出で会いしかば、われらはこれに乗せてミチレネに至り、15またそこを出帆して翌
 16 日キオスの沖合いに至り、次の日サモスに着し、明くる日はミレトに至れり。16けだしパウロ、
 「小」アジアにて、ひまどらざらんため、エフェゾに立ち寄りたしと決したるなりき。これ、なる
 べくばエルザレムにてペンテコステの日を過ごさんと急ぎいたればなり。

18 17 長老たちに語る 17パウロ、ミレトより人をエフェゾに遣わして教会の長老たちを呼び、18彼ら
 来り集まりしかば、パウロこれに言いけるは、わが「小」アジアに入りし最初の日より、常に、
 19 いかにして汝らとともにありしかば汝らの知るところなり、19すなわち、いっさいの謙遜と涙と
 20 ユデア人のたくみより、わが身に起こりし患難とにおいて主に奉事しつつ、20汝らに益するところ
 21 ろは少しも隠すことなく、これを汝らに知らせ、公にても、また家々につきても汝らを教え、21
 ユデア人にも異邦人にも、神に対して改心すべきこと、わが主イエズス・キリストを信仰すべき
 ことを証明したり。

22 将来を示す 22今われ「聖」靈に迫られてエルザレムにおもむくなるが、いかなることの、わが
 23 身に到来すべきかは、これを知らず、23ただ聖靈が、すべての町においてわれに保証し、繩目と患
 24 難と、われをエルザレムに待てり、とのたまえるを知るのみ。24されども、これらのこと、われ
 一つも恐ろしとせず、わが行くべき道を喜びて全うし、主イエズスより賜わりたる恩寵の福音を
 25 証明するの「聖」役をだにつくし得ば、わが生命をも尊しとはせざるべし。25われは知れり、わ

27-26 見ざるべし。26 ゆえにわれ今日汝らに断言す、衆人の血につきて、われは罪なし、と。27 そは神のおぼしめしをもらすところなく、ことごとく汝らに告げられたればなり。

28 将来の警戒 28 聖霊は神の教会、すなわち御血をもつて得給いたる教会を牧せよとて、汝らを立てて群の上に監督たらしめ給いたれば、汝ら、おのれにも群全体の上にも省みよ。29 われは知り、わが出立ののち群を惜しまざる猛き狼、汝らのうちに入らんとす。30 また弟子たちをさそいて、おのれに従わせんとて、よこしまなることを語る人々、汝らのうちにも起こるべければ、31 汝ら、わが三年の間、昼夜となく涙をもつて一人一人汝らを勧めてやまざりしことを記憶に留めて警戒せよ。32 今やわれ汝らを神にゆだね、またよく建物を作ることと、すべて聖とせられたる人とともに世継ぎたらしむることとを得給うものの恩寵の言葉にゆだね。

34-33 無欲を勧む 33 わが、人の金銀衣服をむさぼりしことなきは、24 汝らの自ら知れるがごとし。そは、われおよびわれとともにある人々の要するところは、この両手これを供給したればなり。

35 かくのごとく働きて弱き人を助くべきこと、「与うるは受くるよりも幸いなり」と、主イエズスのたましいし御言葉を記憶すべきことを、われは万事において汝らに示せり、と。

37-36 今生の別れ 36 かく言い終わりのち、パウロひざまずきて一同とともに祈りけるが、37 みな大いに悲しみ嘆き、パウロの首に抱きつきて接吻し、38 再びその顔を見ざるべし、と言ひし言葉によりて、ことさらに悲しみたりしが、人々彼を船まで送り行けり。

① 日曜日。② 聖体拝領のため。③ 本書2・1を見よ。④ ラテン訳では悔い改め。⑤ ラテン訳では宣教。⑥ ラテン訳では万事を。

1 **第二章** チロへ航海す 1 われらは、ようやく彼らに別れて船に乗り、ユス〔島〕に直航し
 2 て翌日ロデ〔島〕に至り、それよりパタラ〔市〕に行きしが、2 フェニケアへ渡海する船に会い
 3 たれば、これに乗りて出帆し、3 クプロ〔島〕沖に至り、これを左に見てシリアに渡り、チロに
 4 至れり。そは、そこにて船荷をおろすべければなり。4 さて弟子たちを尋ね出だして、そこに留
 まること七日なりしが、彼らは〔聖〕靈によりてパウロに、エルザレムへのぼることなかれ、と
 言いいたり。

5 信者に見送らる 5 七日のち出発して行きけるに、彼らみな妻子とともに市外まで送りしか
 6 ば、われらは海岸にひざまずきて祈り、6 互いに別れを告げて、われらは船に乗り、彼らは家に
 帰れり。

7 カイザリアに至る 7 かくてわれら、チロより海を渡りはててプトレマイスに上陸し、兄弟た
 8 ちに挨拶して彼らのもとに留まること一日、8 翌日出立してカイザリアに至り、かの七人の一人
 9 なるフィリップ福音師の家に入りて、そのもとに留まりしが、9 これに童貞なる四人の娘ありて、
 みな予言しつつありき。

10 アガボの予言 10 われらが数日ここに留まれる間に、アガボと言える一人の予言者、ユデアよ
 11 り来り、11 われらに近づきてパウロの帯を取り、おのが手足を縛りて言いけるは、聖靈のたまわ
 く、エルザレムにおいてかくのごとく、ユデア人この帯の主をば縛りて異邦人に渡さん、と。
 12 パウロの決心 12 これを聞きて、われらも土地の人々も、エルザレムにのぼることなかれ、と
 13 願いたれど、13 パウロ答えて言いけるは、汝ら何すれぞ泣きてわが心を憂いしむる、われは主

イエズスのみ名のためには、エルザレムにおいて縛らるるのみならず、死ぬる覚悟をさえなせるなり、と。14 われらは、ついに説き得ずして、主のみ旨のままになれかし、と書いてやみたり。15 数日ののち、われらは旅支度してエルザレムにのぼる時、16 カイザリアよりの弟子数人來りてわれらに伴い、ムナソンと言えろクプロ生まれの古き弟子のもとに宿らせんとて、その家に伴い行けり。

第五項 エルザレムにおけるパウロの就縛^{じゆばく}

18-17 エルザレムに至る 17 エルザレムに至りしかば、兄弟たちはわれらを歓迎せり。18 翌日パウロわれらとともにヤコボ²の家に入りしに、長老たち、みな集まりしかば、19 パウロ彼らに接吻して、20 おのが聖役によりて異邦人のうちに神のなし給いしことをつぶさに語りけるに、20 彼ら聞きて神を賞賛し、かつパウロに言いけるは、兄弟よ、汝の見るごとく、ユデア人のうち信じたる者幾万³に及びて、みな律法の熱心家^{ねつしんか}なるが、21 彼らは汝が異邦人中のユデア人に向かい、めんめんの男子らに割礼を授くるに及ばず、慣例に従うに及ばず、と書いてモイゼに遠ざかることを教うるを22 聞けり。22 さて、いかにかすべき、彼らは汝が來れることを聞くべければ、必ずおびただしく來り集まるならん。

23 長老たちの意見 23 されば、われらが汝に告ぐるところをなせ、われらに誓願^{せいがん}を有せる人四人24 あり、24 汝、彼らを引き取りてともに身を清め、かつ費用を弁じて、その頭^{かしら}をそり得させよ、しか

せば、人みな汝につきて聞きしところの偽りにして、汝自ら律法を守りつつ歩めることを知るべし。
 25 異邦人にして信じたる人々に関しては、われら議定して、ただ偶像に献げられし物と、血と絞
 め殺されしものと私通しつうとを避くべしと書き送れり、と。

26 パウロこれにこたへせず 26 かくてパウロ、かの人々を引き取り、翌日身を清めて、ともに「神」殿
 に入り、めんめんのために供え物をなさんとして清めの期日を定めたり。

27 パウロの就縛じゆぼく 27 七日の終わらんとする時、「小」アジアよりのユデア人、パウロを「神」殿
 の内に見しかば、人民を煽動し、彼に手をかけて叫びけるは、28 助けよ、イスラエルの男子たち、
 これ至る所に人民と律法と、このところとに反することを人々に教え、しかも異邦人を「神」殿
 に入らしめて、この聖所を汚せる者なり、と。29 けだし彼らは、エフェゾ人なるトロフィモが彼
 とともに市中にあるを見て、パウロこれを「神」殿に入れたりと思ひしなり。30 ここにおいて市
 中をこぞりて立ち騒ぎ、人民馳せ集まりてパウロを捕え、「神」殿の外に引き出だししが、門は
 ただちに閉ざされたり。

31 千夫長の尽力 31 さて人々、パウロを殺さんと計りければ、軍隊の千夫長のもとに、エルザレ
 ム全く乱れたり、との報告あり、32 千夫長ただちに兵卒および百夫長らを率いて人民の所に馳せ
 来りしかば、人々千夫長と兵卒とを見てパウロを打つことをやめたり。33 千夫長近づきてこれを
 34 捕え、命じて二つの鎖くさりにてつながせ、こはたれなるぞ、何をなししぞ、と尋ぬるに、34 群衆のう
 ちより口々に、かれこれと叫び、騒がしさに事実を確かむることあたわざれば、命じてパウロを
 35 兵営の内に引き入れしめしが、35 階段に至り、パウロ、人民の「押し合う」勢いのため、兵卒に

36 かき上げらるるに及べり、36 そは彼を殺せと叫びつつ、人民おびただしく、あとを慕えばなり。
 37パウロ、談話せんことをころう 37パウロ引かれて兵營に入らんとする時、千夫長に向かい、われ汝に語りてよきか、と言いしかば、彼言いけるは、汝、ギリシア語を知れりや、38 過日騒動を起こして四千人の刺客を野に引き出だししエジプト人は汝にあらずや、と。39パウロこれに言いけるは、われ実はシリア〔州〕のタルソ生まれなるユデア人にして、隠れなき町の公民なり、こ
 40う、人民にも言うことを許せ、と。40彼、許ししかば、パウロ階段に立ちて人民に手まねしたるに、みな沈黙したりければ、ヘブレオ語にて語りけるは、

①執事。本書6・5 ②使徒である小ヤコボでエルザレム教会の監督であった。 ③ラテン訳では幾千に。 ④これは民数紀略6・2と21に言うナジル人の願である。この願を立てる人は、まず髪をのばし禁酒し、清めの日数を七日または三十日と定めて、その間、聖殿の内に留まり、終わりの日に司祭に種々の祭を献げさせ、頭をそるのがならわしであった。

1 **第二十章** 人民に語る 1兄弟にして父たる人々よ、わが汝らに述べんとすることわけを聞け、
 3-2と。2人々彼がヘブレオ語にて語るを聞きて、ひとしお沈黙せり。3かくてパウロ言いけるは、われはユデア人にしてシリシアのタルソに生まれ、この町に育てられ、先祖の律法の真理に従いてガマリエルの足もとに教えられ、律法のために奮励せしは、あたかも今日汝ら一同のなせるごとくなりき。

4パウロ、感化を受けたる次第を繰り返す 4わが男女を縛り、かつ拘留して、死に至らしむる
 5までこの道を迫害せしは、5司祭長および長老会が、われにつきて証明せるがごとし。われまた彼らより兄弟たちに宛てたる書簡を受け、人々を縛りてエルザレムに引き、刑を受けしめんとて

6 ダマスコへ行きつつありしに、6 ダマスコに近づかんとする道すがら、日中にたちまち大いな
7 る光ありて、われを囲み照らせり。7 さて地に倒れて、サウロよ、サウロよ、何ゆえにわれを迫
8 害するぞ、とわれに言える声を聞き、8 主よ、汝はたれぞ、と答えしに、われは汝が迫害せるナ
9 ザレトのイエズスなり、と言われたり。9 道づれなる人々は光を見たれど、われに語れる者の声
10 をば聞きわけざりき。10 さてわれ、主よ、何をなすべきぞ、と言いたるに、主のたまわく、立ち
11 てダマスコに行け、すべて汝のために定まりたることは、³そこにて言わるべし、と。11 かくてわ
12 れは、かの光の輝きのために目見えざれば、道づれの人に手を引かれてダマスコに至れり。12 し
13 かるにアナニアとて、律法を遵奉^{じゆんほう}し、敬虔にして当地に住めるユデア人一般に好評ある人、13 わ
14 がもとに來り、かたわらに立ちて、兄弟サウロ、見よ、と言いしかば、われ即時にこれを見たり。
14 14 彼また言いけるは、われらの先祖の神は、汝をしてみ旨⁴を知り、義^ぎなる者⁵を見、その口ずから
15 声を聞かしめんことを予定し給えり。15 そは、汝、見聞^{みき}きせしことにつきて、万民に彼が証人た
16 るべければなり。16 今は何をかためらうぞや、立ちて洗せられよ、み名を頼みて汝の罪をすすぎ
17 去れ、と。17 かくてわれエルザレムに帰り、神殿にて祈れるおり気を奪わるごとくになりて、
18 18 主を見奉りしが、主われに向かいて、急げ、早くエルザレムを出でよ、そは人々われに関する
19 汝の証明を受け入れざるべければなり、とのたまえり。19 その時われ、主よ、わがかつて主を信ず
20 る人々を監獄に閉じ込め、これを諸会堂にてむち打ち⁶しこと、20 また主の証人ステファノの血の
流されし時に立ち会い、かつ賛成してこれを殺す人々の上着を守りたりしことは彼らの知るとこ
21 ろなり、と言いたるに、21 主われにのたまひけるは、行け、汝を遠く異邦人に遣わすべし、と。

22 ^{ちようもんしや}聴聞者の^{げきど}激怒 22 人々この言葉まで聞きけるが、ここに至りて声張りあげ、かかる者を地上より取りのけよ、生くるに足らず、^と言いて、23 叫びつつ衣服を脱ぎ捨て、かつ空中にちりを投げてとばしければ、24 千夫長命じて、パウロを兵營に引き入れしめ、また人々が彼に対して、かくま^でに叫ぶことの何ゆえなるかを知らんとてむち打たしめ拷問せしめんとせり。

25 ^{パウロ}、^{不法の処置をな}じる 25 されば人々、皮ひもをもつて縛りたるに、パウロ、かたわらに立てる百夫長に言いけるは、^{ロマ}人にして、しかも宣告せられざる者を汝らがむち打つことよ^{きか}、と。26 百夫長これを聞きて千夫長に近づき、告げて、汝いかにせんとするぞ、この人は^マの公民なる者を、^と言いしかば、27 千夫長近づきてパウロに言いけるは、われに告げよ、汝は^{ロマ}人なりや、と。パウロ、^{しかり}、^と言いしに、28 千夫長、われは^{大金}をもつてこの公民権を^{得たり}、^と答えしかば、パウロ、われはなお生まれながらにしてしかり、^と言えり。29 ここにおいて拷問せんとせし人々たちまち立ち去り、千夫長もまた、その^{ロマ}公民たることを知りてのちは、これを縛りたるがために恐れたり。

第六項 ^{パウロ}、^{衆議所に出頭}し、^{カイザリア}へ護送せらる

30 ^{議員召集} 30 翌日パウロがユデア人に訴えらるるゆえんをなお詳しく知らんとて、千夫長はその繩目を解き、命じて司祭たちと全議會とを召集しパウロを引き出だしてその前に立たしめたり。

①すなわちアラメアン方言で。②本書5・34 ③ラテン訳では汝のなすべきこと。④エフェソ書1・1~11 ⑤すなわ

ち主イエズス・キリスト。本書3・14、7・52、ヨハネ一書2・1 ⑥マテオ10・17、23・34 ⑦本書7・58、60 ⑧

ラテン訳では、うちに。

1 **第二十三章**

パウロの答弁

1 パウロ、議員の方を見つめて言いけるは、兄弟たる人々よ、われ

2 今日に至るまで良心をつくして神のみ前に仕えたり、と。2 ここにおいて司祭長アナニア、立ち

3 そえる人々に、パウロの口を打て、と命ぜしかば、3 パウロこれに言いけるは、白塗りの壁よ、

神は汝を打ち給わん、汝、律法のままにわれを裁かんとて坐しながら、律法に反して命じて、わ

れを打たしむるか、と。4 立ち会える人々、汝、神の大司祭を呪うや、と言いに、5 パウロ言

いけるは、兄弟たちよ、われ、その大司祭なることを知らざりき。けだし書きしるして「汝が民

の君を呪うことなかれ」とあり、と。

6 **パウロの策略** 6 パウロ、議員の一部はサドカイ人なるに一部はファリサイ人なることを知り

て議会に呼ばわりけるは、兄弟たる人々よ、われはファリサイ人の子にしてファリサイ人なるが、

7 死人の復活の希望のために裁判せらるるなり、と。7 かく言いしかば、ファリサイ人とサドカイ人

8 との間に激論起こりて会衆分裂せり。8 そはサドカイ人は復活も天使も霊もなしと言うを、ファ

9 リサイ人は、いずれもありと主張すればなり。9 さて、すさまじき叫びとなりて、ファリサイ人中

のある者ども立ち争いて言いけるは、われらこの人に何らの悪をも認めず、もし霊または天使あり

10 て彼に語りたらんにはいかん、とて、10 激しき争いとなりしかば、千夫長、パウロが彼らに引き裂か

れんことを恐れて兵卒に命じ、くだりて彼らの中よりパウロを奪い取り営内に引き入れしめたり。

11 **主、パウロを励まし給う** 11 次の夜、主たちまちパウロのかたわらに現われてのたまひけるは、

励め、けだしエルザレムにおいてわれを証したるがごとくロマにおいても証せざるべからず、と。
 12 ユデア人のもくろみ、12夜明けて、あるユデア人ども相集まり、誓いてパウロを殺すまでは飲
 14-13 食すまじと言えり。13この企てにあずかりし者、四十人以上なりしが、14司祭長と長老たちとのも
 とに至りて言いけるは、われら大願を立てて、パウロを殺すまでは何をも口に入れじと誓えり。
 15 15さればパウロの事情をなお詳しく知らんとするごとくにして、彼を汝らの前に出頭せしむるよ
 う千夫長に報知せよ、われら、その近づかざるうちに、これを殺さんと覚悟せり、と。
 16 そのもくろみあばかる、16パウロが姉妹の子、この悪計を聞きて、行きて兵營の内に入りパウ
 17 口^にこれを告げしかば、17パウロ一人の百夫長を呼びて言いけるは、こう、この青年を千夫長の
 18 もとに携え行け、そは彼に告ぐべきことあればなり、と。18百夫長携えてこれを千夫長のもとに
 導き、さて言いけるは、囚人パウロわれにこうに、汝に語るべきことあるこの青年を汝のもとに
 19 導かんことをもつてせり、と。19千夫長、青年の手を取りて別所に連れ行き、われに語るべきこ
 20 ととは何ごとぞ、と問いしかば、20彼言いけるは、ユデア人申し合せて、パウロの事情をなお
 確かに尋問せんとするごとくにして、明日パウロを議会に出頭せしめんことを汝に申し出でんと
 21 す、21されど彼らを信ずることなかれ、そは彼らのうち四十人以上の者ども、彼を殺すまでは飲
 食せずと誓い、今すでに準備して汝の約束を待ちつつあればなり、と。
 22 パウロ、カイザリアへ護送せらる、22千夫長、このことをわれに告げたりとたれにも語るこ
 23 事なかれ、と戒めて青年を帰し、23さて二人の百夫長を呼びて言いけるは、汝らカイザリアに向け
 24 て、兵卒二百人、騎兵七十人、槍持ち二百人を夜の九時より仕立てさせ、24また馬を備えてパウ

25 口を乗らしめ、無事に総督フェリクスのもとへ伴い行かしめよ、と。25 これユデア人がパウロを捕えて殺すことあらば、おのれ賄賂を受けたるごとく、のちに至りてざん訴せられんことを恐れしゆえなり。26 さて書きそえたる書簡の文、左のごとし、27 クロウジオ・ルジア、いと尊き総督フェリクスに挨拶す。この人、ユデア人に捕えられて、すでに殺されんとせしを、われ、その口マ人たることを聞き、軍隊を引き行きて救い出だしたるが、28 彼らのこれをとがむるゆえんを知らんと欲して、これをその議会に召し連れたるに、29 われは、その訴えらるるところが彼らの律法に関する問題たるを認めて、いささかも死刑もしくは入獄に当たる罪あるを認めず、30 しかのみならず、彼らこれを害せんとする企てありと告げられたれば、これを汝のもとに送り、告訴人にも、汝の法廷に起訴せよ、と告示せり、汝、健やかなれ、と。

31 総督に渡さる 31 されば兵卒らは命令に従い、パウロを携えて夜中にアンチパトリに連れ行き、32 明くる日は騎兵を残してこれに伴わしめ、さて、おのれらは兵營に帰りしが、33 騎兵はカイザリアに至り、総督に添書を渡してパウロをもその前に立たしめたり。34 総督添書を読み、本国はいづくぞ、と問い、そのシリシア州なる由を聞きしかば、35 汝の告訴人來りてのち汝に聞くべし、と書いて、命じてパウロをヘロデの邸内に守らしめたり。

① 出エジプト記 22・28 ② 主イエズス・キリスト。 ③ 原文には三時。

第七項 カイザリアにおけるパウロの入獄

第二十四章

パウロの告訴人

1 五日ののち、司祭長アナニア、ある長老たち、およびテルトル

2 ロと言える一人の弁士^{べんし}とともにくだりて、総督のもとにパウロを告訴したり。2 パウロ呼び出だされければ、テルトル訴えを開きて言いけるは、いと尊きフェリクスよ、われらが、汝の庇陰^{ひいん}によりて太平のうち生活し、かつ汝の先見によりて人民のために改良せらるること多きは、3 いつにても、いずこにても、われらが感謝に堪えざるところなり。4 さて汝のひまを欠くまじきがゆえに、こいねがわくは例の寛仁^{かんじん}をもつて、しばらくわれらに聞かれんことを、5 われらは、この人が疫病^{えきびょう}のごとき者にして、世界至る所、すべてのユデア人中に騒乱^{そうらん}を引き起こし、ナザレト人の一揆^{いつぎ}の張本^{ちやうほん}にして、6 「神」殿を汚さんとまで努めたることを認めたり。われらはこれを捕え、7 わが律法に従いて裁判せんと思ひしに、7 千夫長ルジア不意^{ふい}に來り、多勢^{たせい}をもつて、われらの手8 よりこれを奪い去り、8 その告訴人に命ずるに、汝のもとに至らんことをもつてせり。汝これに9 聞きたださば、われらがこれを告訴するいっさいの事情を知り得べし、と。9 ユデア人もまた、これに加えて、すべてそのごとし、と言えり。

10 **パウロの弁解** 10 総督うなずきて発言を許ししかば、パウロ答えけるは、われ汝が多年この国民の上に判事たることを知れば、快くわがために弁解せん。11 けだし汝の了解し得らるるがごとく、わが礼拝のためエルザレムにのぼりたるのち、いまだ十二日以上に達せず、12 また彼ら、われを「神」殿に認めたるも、人と論じ合えるにもあらず、また会堂にも市中にも、人民を召集したりしにもあらず、13 今われを告訴する点につきても、彼らはこれを証するあたわざるなり。14 さりながら、われ汝に自白せん、すなわちわれは、彼らが異端^{いたん}と呼べる道に従いて、わが先祖た

15 ちの神に仕えまつり、すべて律法および予言者の書に書きしるしたることを信じ、15 彼ら自らも
 16 待てる義者、不義者の未来の復活を神によりて希望するなり。16 われはこれによりて、神に対
 17 し、また人に対して、良心を常にとがめなく保たんことを努む。17 数年を経て、われわが国民に
 18 施しをなし、かつ供え物と誓願とをなさんために来りしが、18 そのおりアジアより来りし数人の
 19 ユデア人、わがすでに清められたるを「神」殿に見つけたれど、群衆もなく騒乱もなかりき。19
 20 われにとがむべきことあらば、彼らこそ汝の前に立ちて告訴すべきなれ。20 もしまた、この人々
 21 にして、わがその会議に立ちし時、何らかの不正なるかどを見出だしたるならば、彼ら自ら言う
 21 べし。21 そは、ただわが彼らのうちに立ち、呼ばわりて、わが今日汝らに裁判せらるるは死者の
 復活につきてなり、と言いしひんたまえ一声のほかなかるべし、と。
 22 裁判延期 22 フェリクスこの道のことをいと詳しく知りたりければ、裁判を延期して言いける
 23 は、千夫長ルジアのくだりてのち汝らに聞かん、と。23 かくて百夫長に命ずるに、パウロをくつ
 24 ろがしめ、友人の一人にだもこれに供給することを禁ずることなくして守るべき由をもつてせり。
 24 総督の野心 24 数日ののち、フェリクス、ユデア人なるその妻ドルジルラとともに来り、パウ
 25 ロを招きてキリスト・イエズスにおける信仰のことを聞きしが、25 パウロ、正義と貞操ていさうと未来の
 26 審判とにつきて論じければ、フェリクスおののきて答えけるは、当分は引き取りてあれ、われ、
 26 よきおりを得て汝を招かん、と。26 しかのみならず、フェリクスはパウロより金を与えられんこ
 27 とを望めるがゆえに、しばしばこれを招きて語りつつありしが、27 二年を経てポルチオ・フェス
 トを後任者に得たりければ、ユデア人を喜ばしめんとてパウロをつなぎたるままにさしおけり。

① ラテン訳では、わが父および神。

第八項 パウロ、フェストの法廷に出頭す

1 **第二十五章** 告訴人の催促 1 フェスト赴任して三日ののち、カイザリアよりエルザレムにのぼ

3-2 りければ、2 司祭長らおよびユデア人の重だちたる者、パウロを訴えんとてそのもとに至り、3
み恵みには命じてパウロをエルザレムへ連れ行かしめ給え、と願えり。これ途中に待ち伏せして
4 彼を殺さんとすればなり。4 フェスト答えて、パウロは守られてカイザリアにあり、われ、ほど
5 なく出立すべければ、5 もし、かの人¹に罪あらば汝らのうちのしかるべき人々、われとともにく
だりて、これを訴うべし、と言えり。

6 新総督、パウロを呼び出だす 6 かくてフェストは八日か十日ばかり彼らのうちに滞在してカ
7 イザリアにくだり、翌日法廷に坐し、命じてパウロを引き出ださせしが、7 パウロ召し出だされ
ければ、エルザレムよりくだりたるユデア人らこれを取り囲みて、種々の重罪を負わせたれど、
8 これを証することあたわざりき。8 パウロは自ら弁解して、われユデア人の律法に対しても、神
殿に対しても、セザル¹に対しても、何らの罪を犯したることなし、と言えり。

9 パウロ、上告す 9 フェスト、ユデア人を喜ばせんとてパウロに答えて、汝、エルザレムにの
10 ぼり、かしこにて、わが前に裁判を受けんことを欲するか、と言いしかば、10 パウロ言いけるは、
われはセザル¹の法廷に立てり、ここにて裁判せらるべし。汝のよく知れるがごとく、われはユデ

11 ア人に害を加えたることなし、11もし害を加えたるか、あるいは死刑に当たる何ごとをかなしたらんには、われ死を辞せず、されど彼らが、われに負わすること一つも立たずば、たれもわれを彼らに引き渡し得べからず、われセザルに上告す、と。12ここにおいてフェスト、陪席と談じてのち答えけるは、汝、セザルに上告したればセザルのもとに行くべし、と。

13 アグリッパ王の来臨 13 数日を経てアグリッパ王およびベルニケは、フェストの安否を問わんとてカイザリアにくだり、14 数日間滞在しければ、フェスト、パウロのことを王に告げて言いけるは、ここにフェリクスより残しおかれたる一人の囚人あり、15 われエルザレムにおりし時、司祭長、ユデア人の長老たちわがもとに來りて、これが宣告を願ひしかど、16 われ何人にもあれ、被告人が原告人と対面して罪を弁解するおりを得ざるうちに、これを刑罰するはローマ人の慣例にあらざ、と答えたり。17 これによりて彼ら、時を移さずここに集まり來りたれば、翌日われ法廷に坐し、命じて、かの人を引き出ださしめ、18 原告人らこれに立ち会いしに、わが嫌疑をかけたるとき罪をば一点も負わせず、19 おのが宗教および生きおれりとパウロが断言せる一人の死者イエズスに関する問題を提出したるのみ。20 われ、かかる問題には当惑したれば、かの人に向かいて、汝、エルザレムに至り、これにつきて裁判を受くることを望むか、と言ひしに、21 パウロはオグスト³の裁判に保留せらるるよう上告せしかば、われ命じて、セザルのもとに送るまで守らせおけり、と。22 アグリッパ、われもかの人に聞きたし、と、フェストに言ひしかば、汝、明日これに聞くべし、と言えり。

23 パウロの出廷 23 翌日アグリッパとベルニケとは、でをつくして來り、千夫長および町の重だち

24 たる人々とともに公判廷こうはんていに入りしかば、フェストの命令のもとにパウロ引き出だされたり。24 かくてフェスト言いけるは、アグリッパ王およびここにわれらと列席せる人たちよ、汝らの見るこの人は、ユデア人の群衆こぞりてわれに訴え、もはや生くべき者にあらず、と叫びつつ願ひし者なり。25 しかして、われは死に価する何らの罪なきことを彼に認めたれど、彼、オグストに上告せしにより、これを送付すべしと決せり。26 われ君に上書せんとするに確かなる事実なきをもつて、これを汝らの前、殊にアグリッパ王よ、み前に引き出だし、尋問して上書すべき事がらを得んとす、27 そは囚人を送りて、その罪案ざいあんを書きそえざることの無理むりなるを思えばなり、と。

① ロマ皇帝。 ② その姉妹。 ③ ロマ皇帝。

1 **第二十六章** パウロの弁解 1 アグリッパ、パウロに向かい、汝自らのために弁解することを許

2 されたるぞ、と言ひしかば、パウロ手をのべてことわけを言い出でけるは、2 アグリッパ王よ、わがユデア人より訴えらるるすべてのことにつき、今日きょうみ前に弁解せんことは、身にとりて幸いとすると所なり。3 ことさらユデア人における慣習も問題も、すべて汝の知るところなれば、願わくは忍耐をもつて、われに耳を貸し給わんことを。

4 感化以前のことを述べ 4 わが初めよりエルザレムにて、わが国民の間に営みし少年以来の生活は、ユデア人のみな知るところにして、5 彼らもし証明する心あらば、われらが宗教の最も確かなる派に従いてファリサイ人*としてわが生活せしことは、もとよりこれを知れるなり。6 今もまた神よりわれらの先祖になされし約束に望みをかくればこそ、われは立ちて裁判を受くるなれ。7 われらの十二族は、昼夜ちゆうやとなく、ひたすら神を礼拝1して、この約束を得んことを希望するに、

8 王よ、この希望につきてぞ、われはユデア人より訴えらるる。8 神の死者を復活せしめ給うことを、汝ら何ぞ信じがたしとする。9 われも、げにナザレトのイエズスのみ名に対して、大いに逆らわざるべからず、とかつては思いたりしかば、10 エルザレムにおいても、しかなせり、かつ司祭長たちより権力を授かりて、多くの聖徒を監獄に閉じ込め、かつ彼らの殺さるる時これに賛成の投票をなせり。11 また諸会堂において、しばしば彼らを罰し、冒瀆ぼうとくを迫り、かつますます彼らに対して狂憤きやうふんし、外国の町まで迫害しつつありき。

12 感化の次第また繰り返さる 12 かくて司祭長たちより権力と許可とを得て、ダマスコにおもむきしおり、13 王よ、道すがら日中に日の輝きにもまされる光の、われおよび道ずれを囲み照らせるを見たり。14 われらはみな地に倒れしが、ヘブレオ語にて、サウロよ、サウロよ、何ぞわれを迫害するや、とげあるむちに逆らうことは汝にとりてかたし、とわれに言える声を聞けり。15 われ、主よ、汝はたれぞ、と言いに、主のたまわく、われは汝の迫害するイエズスなり、16 ただし起きて足にて立てよ、わが汝に現われしは汝を立てて役者えきしやとなし、かつ汝のすでに見しことと、17 また、わが現われて汝に示すべきことにつきて証人たらしめんためなり。18 われこの人民、および異邦人の手より汝を救わん、汝を彼らに遣わすは、18 彼らの目を開きて闇より光に、サタン*の権威より神に立ち帰らしめ、われにおける信仰によりて罪の許しと聖徒中の配分とを得させんためなり、と。

20-19 感化以後の業 19 さればアグリッパ王よ、われは天の示しにそむかずして、20 まずダマスコにある人々に、次にエルザレムに、次にユデア全地方に至り、次に異邦人にまでも、彼らが改心2す

21 べきこと、また改心²にふさわしき業^{きぎょう}をなして神に立ち帰るべきことを告げつつありき。21これが
 22 ために、わが「神」殿にありし時、ユデア人われを捕えて殺さんと試みたり。22されど神の助け
 によりて今日^{こんにち}に至るまで倒るることなく、小さき人にも大いなる人にも証明して言うところは、
 23 予言者たちおよびモイゼが将来起こるべしと語りしことのほかならず。23すなわちキリストの苦
 しむべきこと、死者のうちより先に復活して人民および異邦人に光を伝うべきことこれなり、と。
 24 総督弁解を中止し、パウロこれを利用す。24パウロが、かく語りて弁解しつつあるほどに、フ
 25 エスト声高く、パウロよ、汝は狂えるなり、博学^{はくがく}汝を狂わせたり、と言いかば、25パウロ「言
 26 いけるは、」いと尊きフェストよ、われは狂わず、語るところは誠と常識との言葉なり。26けだ
 し「アグリッパ」王は、これらのことを知り給えば、われもまた、はばからずしてこれに語る。
 27 そはこのこと、一つも片隅において行なわれたるにあらざれば、王に知れざるものなきを確信す
 27 ればなり。27アグリッパ王よ、予言者たちを信じ給うか、われは、その信じ給うを知れり、と。
 28 28アグリッパ、パウロに向かい、汝、われを説きてキリスト信者たらしむるに、残れるところわ
 29 ずかなり、と言いかば、29パウロ「答えける」は、神のみ前にわが望むところは、わずかのこ
 とによらず多きことによらず、一人汝のみならで聞ける人々もまた一同、この繩目を除くのほか
 29 は、わがごとき者とならんことこれなり、と。
 30 閉廷^{へいてい} 30この時、王と総督とベルニケと、ならびに列座の人々立ち上がりしが、31退きてのち
 32 語り合いて、彼は死刑もしくは就縛^{じゆばく}に当たる何ごとをもなししことなし、と言えるに、32アグリ
 ッパ、フェストに言いかば、かの人、セザルに上告せざりしならば許さるべかりしものを、と。

①ラテン訳では奉仕。②ラテン訳では悔悛。

第九項 パウロ、ロマへ出立して難船に会う

第二十七章

イタリアへの出帆

1 かくてパウロ、イタリアへ航海し、かつ他の囚人らとともに
 2 オグスト隊のユリオと言える百夫長に渡さるべしと決せられしかば、
 3 2 われらは「小」アジアの所々に回航すべきアドラミットの船に乗りて出帆せしが、
 4 テサロニケのマケドニア人アリスタル
 5 コもまた、われらとともにありき。
 6 3 翌日シドンに至りしに「百夫長」ユリオは、ねんごろにパウロをあしらい、友人の家に至りて歓待を受くることを許せり。

航海の患難

5-4 4 さて、ここを出帆して逆風のためにクプロ「島」の風下を通り、
 6 5 シリシアとパンフィリアとの灘を航してリシア「州」のミラ「港」に至り、
 7 6 ここにてイタリアへ出帆するアレキサンドリアの船を見つけしかば、
 8 7 百夫長われらをこれに乗りかえさせたり。
 9 7 数日の間、船の進行遅く、
 10 8 かるうじてグニド「半島」の沖合いに至りしも、
 11 9 なお逆風のためにサルモネ「岬」に近づき、
 12 クレタ「島」の風下を通りて、
 13 8 ようやく陸に沿いてタラサの町にほど近き、
 14 9 良き港と言える所に至れり。

パウロの警戒

9 9 時を経ること、すでに久しく、
 10 10 断食節も過ぎしころとて航海安全ならざれば、
 11 11 パウロ彼らを警戒して、
 12 10 10 言いは、男子たちよ、われは航海のようやく困難となり、
 13 11 11 ただに積み荷と船とのみならず、
 14 12 12 われらの身にも損害多かるべきことを認む、と。
 15 13 13 されど百夫長は、

12 パウロの言うところよりも船長と船主とを信用し、12 この港は冬を過ぐすに不便なればとて、多数の決議によりてここを発し、なるべくクレタ「島」の一港にして、西南と北西との風下に向かえるフェニスに至りて冬を過ぐさんこととなれり。

13 おおかせ 大風に会う 13 おりしも南風静かに吹きければ、彼らはその目的にかなえりと思ひていかりを上げ、近くクレタ「島」に沿いて航行しけるに、14 幾ほどもなくユロアキイロと名づくる大風吹きすさみしかば、15 船は吹き流されて風上に進み得べくもあらず、風に任せて漂いつつ、16 ヨウダと言え「小」島のもとに至り、かろうじて小艇を留むるを得たり。17 さてこれを引き上げしに、船員はシルト「湾」へ吹きやられんことを恐れて、備え綱をもつて船体を巻きくくり、帆をおろして、そのままに流れけるに、18 激しき嵐に漂わされて翌日は積み荷をはね、19 三日目には手ずから船具をも投げたり。20 かくて数日の間、日も星も見えず、はなはだしき嵐にかかりて、われらの助かるべき見込みは全く絶えはてたり。

21 **パウロ、同船者を慰む** 21 人々、飲食せざることすでに久しければ、パウロ彼らのうちに立ちて言いけるは、男子たちよ、先にわが言うことを聞きてクレタ「島」を出帆せざりしならば、かかる損害と危険とをまぬかれたりしものを。22 さてわれ、今は安心せんことを汝らに勧む、そは汝らのうち一人も生命を失わずして、船のみすたるべければなり。23 けだし、わが属するところ、仕えまつるところの神の使、昨夜わがかたわらに立ちて、24 言いけるは、パウロよ、恐るることなかれ、汝はセザルの前に出廷せざるべからず、かつ神は汝と同船せる者を、ことごとく汝に賜いたるなり、と。25 されば男子たち心を安んぜよ、そはわれに言われしごとく、しかあるべし、

26 と神によりて信ずればなり。26 われらは必ず、ある島に至るべし、と。
 27 島に近づく。27 かくて第十四夜に至りて、われらアドリア海を航しつつありしに、夜中ごろに
 28 水夫ども、いずこやらん土地の見ゆるように覚えしかば、28 測鉛を投じたるに二十尋なることを
 29 認め、少しく進みて十五尋なることを認めたり。29 瀬に当たらんことの恐ろしければ、船の舳よりい
 30 かりをおろして夜の明くるを待ちたりしが、30 水夫は船よりのがれま欲しさに、船の舳よりい
 31 りをおろさんとするをかこつけにて、すでに小艇を海に浮かべたれば、31 パウロ百夫長と兵卒ら
 32 とに向かい、この人々船に留まらずば汝ら助かることあたわじ、と言いしに、32 兵卒ら小艇の綱
 を断ち切りて流るるに任せたり。
 33 十四日ぶりの食事 33 夜明けんとする時、パウロ、一同に食せんことを勧めて言いけるは、汝
 34 ら何をも飲食せずして空腹にて待てることすでに十四日なり、34 ゆえにわれ、汝らの健康のため
 35 に食せんことを勧む、けだし汝らの一人の髪の毛一すじだに失せざるべし、と。35 かく言い終わ
 36 りてパンを取り、一同の前にて神に感謝し、裂きて食し始めしかば、36 みな、ひとときわ心落ち着
 37 きて人々も食事したり。37 われら船におる者すべて二百七十六人なりしが、38 人々飽き足りての
 38-37 ち麦を海にはねて船を軽くせり。
 39 船を乗り上げ 39 夜明けてのち、その土地をば見知らねども、ある砂浜の入り江を見つけて、
 40 かなうべくは、そこに船を寄せんと思ひ、40 綱を切りていかりを海に捨て、舵綱をもゆるめて舳
 41 の帆をあげ、風に従いつつ陸をさして進みけるが、41 両方海にはさまりたる所に至りて船を乗り
 42 上げ、舳ははまりて動かざれど、艦は波の力のためにはずれいたりき。42 この時兵卒ら、囚徒の

43 泳ぎて逃げんことを恐れて、これを殺さんと志したれど、
44 百夫長、パウロを救わんと欲してこれを禁じ、命じて、泳ぎ得る人々をしてまず飛び入りて陸おかにのがれしめ、
44 さて残れる人々を、あるいは板、あるいは船具に乗せたれば、みな、つつがなく上陸することを得たり。

① ラテン訳ではアドルメタミシア州の町。 ② 本書19・29、20・4、コロサイ書4・10、フィレモン書24 ③ フェニシア州の。 ④ ラテン訳ではリストラ。 ⑤ 北西の風。 ⑥ あるいはラゼア。 ⑦ レビ記16・29によって秋分に守った大赦の断食のこと。 ⑧ 原文には魂。 ⑨ ラテン訳では風を受くる。 ⑩ 今、ルトロと言う。 ⑪ 北東の風。 ⑫ ラテン訳では島。 ⑬ 原文には魂。

第十項 パウロ、マルタに漂流しロマに至る

第二十八章

島人の親切

1 われらすでにのがれてのち、この島のマルタ1と呼ばれることを知り
2 しが、夷えびすら、ひとかたならぬ親切を示し、2 雨降りて寒ければとて、火をたきてわれら一同を保
養せしめたり。

3 まむし、パウロにつく 3 パウロそこばくのしばを集めて火にくべしに、火熱かおつのためにまむし
4 出でて、その手に食くいつきしかば、4 夷えびすら、虫のパウロの手に食くいつけるを見て、この人、定め
て人殺しなるべし、海よりはのがれたるも、天これに生くることを許さず、と語り合いけるに、
6-5 5 パウロ、虫を火の中に振り落として、いささかも害を受けざりき。6 人々は、彼必ずはれ出だ
して、たちまちに倒れ死するならんと思えるに、待つこと久しくして、いささかも害の及ばざる
を見るや、翻ひるがえりて、これ神なり、と言いいたり。

7 病人いやさる 7 さて、この所に、プブリオと呼ばれる島司とうしの所有地ありしが、彼、われらを接待して三日の間ねんどろにもてなせり。8 しかるにプブリオの父、熱病と赤痢せきりとを憂いてふしければパウロそのもとに至り、祈りかつ接手あんしゅしてこれをいやしたり。9 かかりしほどに、島において病める人々、ことごとく来りていやされつつありしが、10 また大いにわれらを尊びて、船に乗るにのぞみ、必要な品々しなじなをわれらに贈れり。

11 三月みつきのち、われらはこの島に冬ふゆもりしたりしジヨストリ2の印あるアレキサンドリアの船にて出帆し、12 シラクサ3に至りて滞留すること三日、13 ここより岸に沿いてレジオ4に至りしに、一日を経て南風みなみかぜ吹きしかば、二日目にプテオリ5に至り、14 ここにて兄弟たち6に出で会い、願ねがいによりて彼らのうちに留とどまること七日なぬかにして、ついにロマに至れり。15 ロマの兄弟たちこれを聞きて、アッピイフォロムおよび三つ宿やどと言いえる所まで、われらを出で迎えしが、パウロ彼らを見て神に感謝し、かつ力を得たり。16 かくてわれらロマに至りしに、「百夫長、囚徒を近衛隊長このえに渡したれど」パウロはおのが宿しゅに一人の守衛兵しゅゑいへいとともに留とどまることを許されたり。

17 パウロ、ユデア人を招く 17 三日のち、パウロ、ユデア人の重だちたる者呼び集めしが、彼ら来りしかばパウロこれに言いけるは、兄弟たる人々よ、われかつて、わが国民または先祖の慣習かんしゅうに反することをなさざりしを、エルザレムより囚人としてロマ人の手に渡されしが、18 彼ら尋問じんもんの上、死罪に当たることなきにより、われを許さんとしたりしに、19 ユデア人のこれを拒みたるために、われ、やむを得ずしてセザルに上告せり。しかれども、わが国民につきて訴うるところあるにあらざれば、20 われは汝らに会あひて語らんことをこえり、けだしイスラエルの希望の

ためにこそ、われはこの鎖くさりにくくられたるなれ、と。

21 パウロ、教えを述べ 21 彼らパウロに言いけるは、われらは汝につきてユデアより書簡を受けたるにもあらず、また兄弟のうちに来りて汝が悪しきことを吹聴ふいちようし、あるいは語りたる者あるにあらず、22 されど、こいねがわくは汝の思えるところを聞かん、そはこの宗派しゅうはいが至る所において逆らわることを知ればなり、と。23 かくて彼ら日を期してパウロの宿しゆくに群むらがり来りしかば、彼朝より晩に至るまで説教して、神の国を証明し、またモイゼの律法および予言者の書にもとずきて、イエズスのことを勧めいたりき。

25-24 その結果 24 かくて言わることとを信ずる人もあり、信ぜざる人もありて、25 相一致せずして退くに至りしかば、パウロただ一言ひとことを述べけるは、誠なるかな、聖霊が予言者イザヤをもつて、われらが先祖に語り給いたること、26 いわく「汝この民に至りて、これを告げよ、汝ら耳にて聞かんも悟らず、目にて見んも認めざるべし、27 けだし、この民の心にぶくなり、耳をおおい目を閉じたり、こは目にて見、耳にて聞き、心にて悟り、しかして立ち帰りてわれにいやされんことを恐るればなり」と。28 されば汝ら心得よ、神のこの救いは異邦人に送られて、彼らはこれを聞くべきなり、と。29 パウロかく言いしかば、ユデア人ら退きて大いに相争えり。

30 パウロ、二年間ロマに留まる 30 パウロその宿しゆくに留まること満二カ年なりしが、おのがもとに入り来る人を、ことごとく歓迎して、31 はばからず妨げらるることなく神の国のことを述べ、主イエズス・キリストのことを教えいたりき。

① ラテン訳ではメリタ。

② カストルおよびポルルクス二神の名。

③ シシリアの都会。

④ 南イタリアの町。

⑤

今、プゾル、ネエプルの付近である。⑥キリスト信者。